

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2017年 6月

「この日を神と共に」 「キリストの再臨」 「調査審判」 「大豆のプラリリーヌ

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「キリストの再臨」

4

聖書の教え

朝のマナ

「この日を神と共に」

8

This Day with God

現代の真理

「調査審判」

39

清めの特別な働き

力を得るための食事

「大豆のプラリーヌ」

48

お話コーナー

「初期の働き(Ⅲ)」

50

イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2017年5月30日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sermon view on pages 8, 40,

Printed in Japan

神の子は、すなわち平和を作り出す者である

キリストは「平和の君」である（イザヤ書 9:6）。キリストのみわざは、罪が破壊した平和を天と地に回復することである。「このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている」（ローマ 5:1）。だれでも罪と絶縁することに同意し、キリストの愛に心を開く者は、この天の平和を持つ者となる。

これ以外に平和の基はない。心に受け入れられたキリストのめぐみは、敵意をしずめる。それは争いをしずめ、魂に愛を満たす。神との平和また隣人との平和を保っている者は、決して不幸になることはない。彼の心には嫉妬（しつと）はない。そこには悪意のはいる余地がない。憎悪も存在しえない。神と調和している心は、天の平和の共有者である。そして周囲のすべての者に、その祝福された感化を及ぼすのである。平和の精神は、世の争いに疲れ、悩む人々の心に、露のようにとどまる。

キリストに従う者たちは平和の使信をもって世につかわされている。きよい生活の静かな無意識の感化によってキリストの愛をあらわし、ことごと行為によって、他の人に罪をすてさせ、心を神にささげるように導く者は、平和をつくり出す人である。

「平和をつくり出す人たちはさいわいである。彼らは神の子と呼ばれるであろう」。平和の精神は彼らが天と結びついている証拠である。キリストの芳しいかおりが彼らをとりまいている。その生活のかおり、その品性の美しさは、彼らが神の子らである事実を世に示している。人々は彼らがイエスと共にいたことを知るのである。「すべて愛する者は、神から生れた者である」（ヨハネ第一 4:7）。「もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない」、しかし、「すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である」（ローマ 8:9, 14）。（祝福の山 34, 35）

21章 キリストの再臨

聖書の基調は、贖いのわざを完成し、義の統治を制定するためにキリストが再臨なさる教理です。この預言された出来事—すべての時代の神の僕たちの大いなる希望となってきた出来事—は、旧約と新約の両方で数多く繰り返されている(ヨブ 19:25-27; 詩篇 50:3; 97:3-5; イザヤ 66:15 (テサロニケ第二 1:5-10 参照); 使徒行伝 1:11; ヘブル 9:28; 10:37; ユダ 14; 黙示録 22:20)。

イエスの来臨の目的

キリストの来臨の主な目的は、ご自分の民をご自分と共に新エルサレムにある天の住まいへ連れていくためです(イザヤ 25:9; ヨハネ 14:1-3; マタイ 24:31; 25:31-34; テサロニケ第一 4:13-17; 黙示録 22:12)。そのとき、このお方はこの世の諸国に終わりをもたらし、悪人に裁きを執行し、聖徒たちに永遠に御国を賜ります(ダニエル 2:44, 45; 7:27; ユダ 15; 使徒行伝 17:31; テモテ第二 4:1; テサロニケ第一 4:17)。

救い主の再臨のしるし

多くのしるしが、キリストの来臨が近いことを指し示していますが、この大事件の正確な時はわかりません(イザヤ 24:4-6, 17-21; ヨエル 1:15-20; 2:30, 31; 3:9-16; マタイ 24:2-31; テサロニケ第一 5:1-3; テサロニケ第二 2:1-5)。サタンはキリストの来臨を演じようとはしますが、選民を欺くことはできません(マタイ 24:23-26; コリント第二 11:14)。

再臨のための準備

来臨に際し、キリストは「準備のできた」人々だけをお受入れになります。このお方はその時にわたしたちを傷のない者となさるのではありません。わたしたちが傷のない者であることを「見出す」のです。わたしたちは恩恵期間の戸が開かれている間に責められるところのない者になっていなければなりません。それに

よって、「わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときまで、責められるところのない者にして下さる」ためです(テサロニケ第一 5:23)。(ユダ 24; マタイ 25:10; ペテロ第二 3:11, 12, 14; ヨハネ第一 3:2, 3; エペソ 5:27; 黙示録 21:27)。

イエスの来臨のさま

キリストの来臨は、個人的であり、文字通りのものであり、目に見えるものであり、聞くことのできるものであり、全世界的なものです(ルカ 9:26; マタイ 24:27, 30; テトス 2:13; テサロニケ第二 2:8; 黙示録 1:7; 6:15-17; 19:11-16)。これをサタンは真似ることができません(テサロニケ第一 4:16)。

再臨に関連するいくつかの重要な出来事

(a) キリストの再臨の直前に恩恵期間の戸が閉じられます(マタイ 7:22, 23; 25:6-13; ルカ 13:23-25; 黙示録 22:11)。

(b) 神の余すことのない怒りが七つの災いのうちに地におとずれます。第六番目の災いが注がれるときに、ハルマゲドンの戦いのために道が備えられます。第七番目の災いの始まりに大地震が全地を震わせませす(黙示録 16:1-21)(各時代の大争闘下巻 414 参照)。

(c) キリストの来臨の直前に部分復活があります(ダニエル 12:2; マタイ 26:64; 黙示録 1:7)。

「墓が開かれる。『地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。そのうち永遠の生命にいたる者もあり、また恥と、限りなき恥辱をうける者もあるでしょう』(ダニエル 12:2)。第三天使のメッセージを信じて死んだ者はみな、栄化されて墓から現われ、神がご自分の律法を守った者たちと結ばれる平和の契約を聞くのである。『彼を刺しとおした者たち』(黙示録 1:7)、キリストの死の苦しみをあざ笑った者たち、そして、キリストの真理とその民とに対して最も激しく反対した者たちは、栄光をまとわれたキリストをながめるために、また、忠実で従順な者たちに与えられる誉れを見るために、よみがえらせられる」(各時代の争闘下巻 414)。

(d) キリストの来臨の際、死んだ義人は不死によみがえり、生きている義人は死すべき体から不死の体へ変えられます。彼らは空中で主に会い、天へ連れていかれて、そこで神のみ座の前に立つのです(ヨハネ 5:25, 28, 29; コリント第

一 15:50-54; テサロニケ第一 4:14-17; ピリピ 3:20, 21; 黙示録 7:4, 9-12)。

「生きている義人たちは、『またたく間に、一瞬にして』変えられる。彼らは、神のみ声によって栄化された。今や彼らは不死の者とされて、よみがえった聖徒たちとともに、空中において主に会うために引き上げられる」(各時代の大争闘下巻 424)。

(e) 最後の七つの災いを生き延びた不義な者たちは、このお方の来臨の輝きによって滅ぼされます(イザヤ 24:6; ルカ 17:29, 30; テサロニケ第二 1:7-10; 黙示録 6: 15-17 (イザヤ 2:19-21 参照))。彼らに第二の機会はありません(イザヤ 26:10; エレミヤ 8:20; ルカ 13:24-28; コリント第二 6:2)。

(f) 全地は無人になります(イザヤ 13:6-13; エレミヤ 4:23-25; ペテロ第二 3:10)。

反キリストを明らかにする

マタイ 24:23-25 を読んでください。

「わたしたちは終わりの時代に、〔大欺瞞者が〕しるしと偽りの不思議とをもって働く」と警告されている。そして彼はこれらの不思議を恩恵期間が閉じるまで続け、自分が闇の使ではなく、光の天使である証拠としてそれらを指し示すのである」(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1099)。

「サタンは誘惑の荒野でキリストを欺くために光の天使としてやってきた。そして彼は、ときどき彼が表わされるようなおぞましい姿で人のところへやってくることはなく、光の天使としてくるのである。彼はイエス・キリストを演じ、力ある奇跡を行ないながらやってくるであろう。そして人々はひれ伏して、イエス・キリストとして彼に礼拝するのである。わたしたちは世界がキリストとして栄光を帰しているこの存在を拝むように命じられる。わたしたちはどうするであろうか。彼らにキリストはこのような敵、すなわち人類の最悪の敵でありながら、神だと主張する敵に対して、わたしたちに警告なさったと告げなさい。またキリストが現れるとき、それは力と大いなる栄光を伴い、千々万々の天使を引き連れて来られるのであり、このお方が来られるとき、わたしたちはそのみ声がわかるのだと告げなさい。」(レビュー・アンド・ハラルド 1888 年 12 月 18 日)

「この時代に反キリストがキリストとして現れ、そのとき神の律法は完全にわたしたちの世界の諸国家において無効にされるであろう。神の聖なる律法に対する

反逆は完全に熟する。しかし、この反逆の真の指導者は、光の天使として装っているサタンである。人々は欺かれて神の代わりに彼を高め、彼を神とする。しかし、全能者が介入され、サタンを高めることにおいて一致した背教の諸教会に対して、次の宣告がなされるのである。『それゆえ、さまざまの災害が、死と悲しみとききんとが、一日のうちに彼女を襲い、そして、彼女は火で焼かれてしまう。彼女をさばく主なる神は、力強いかなのである』(黙示録 18:8)。(牧師への証 62)

真のキリスト

「聖書に啓示された最も厳粛で、最も輝かしい真理の一つは、キリストが、贖罪の大きな業を完成するためにふたたび来られるという真理である」(各時代の争闘上巻 385)。

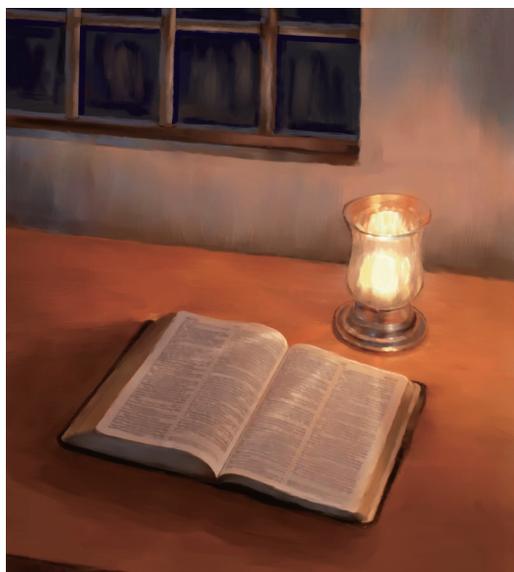
「主の再臨は、各時代において、神の真の弟子たちの希望であった」(同上 389)。

「さばきの宣布は、キリストの再臨に近いことを知らせている。そしてこの宣布は永遠の福音と呼ばれている。このようにしてキリスト再臨のことを説教して、その切迫を告げることが福音のメッセージの本質的部分であることが示されている」(キリストの実物教訓 207)。

「まもなく、東のほうに、人の手の半分くらいの大きさの小さい黒雲が現われる。それは、救い主を囲んでいる雲で、遠くからは、暗黒に包まれているように見える。神の民は、これが人の子のしるしであることを知っている。彼らは、厳粛な沈黙のうちに、その雲が地上に近づくのを見つめる。それは次第に明るさと輝かしさを増し、ついには大きな白い雲となって、下のほうには焼き尽くす火のような栄光が輝き、上のほうには契約のにじがかかっている。イエスは、偉大な勝利者としておいでになる。……生きている雲が、さらに近づく、すべての目は、いのちの君をながめる。いまはその聖なる頭を傷つけるいばらの冠はなく、その聖なる額には栄光の冠がある。そのみ顔は、真昼の太陽よりもまぶしく輝く。『その着物にも、そのもにも、「王の王、主の主」という名がしるされていた』(黙示録 19:16)」(各時代の争闘下巻 419)。

この日を神と共に

This Day with God



6月

6月1日

真のクリスチャン

「小事に忠実な人は、大事にも忠実である。そして、小事に不忠実な人は大事にも不忠実である。」(ルカ 16:10)

真のクリスチャンはキリストの僕である。キリストのためのその人の働きは徹底的に十分になされなければならない。何ものもその人の思いに入り込んでその働きからそらすことがあってはならない。他の事柄にしかるべき注意を払うことはあっても、それは二次的なものである。しかしキリストの奉仕はその人全体、すなわちその人の心、思い、魂、力強さを要求する。キリストは二心のものをお受け入れにはならない。わたしたちが最善を尽くすことを望まれる。だからご自分のために忠実になされないことは何であつてもこのお方の目には無意味である。

.....

一人一人が神から割り当てられた働きをするよう要求されている。わたしたちは、ささやかな奉仕を、すなわち、なされねばならないこと、だれかがしなくてはならないことを、ちょっとした機会を活用し、行なうことによって、快く捧げるべきである。もしもこれらがただ一度の機会であるなら、わたしたちはなお忠実に働くべきである。その仕事がつまらないものであったとしても、手作業をしたくないために、数時間、数日、数週間をむだに費やす人は、自分が浪費した時間について神に申し開きをするよう命じられている。その人が願うだけの賃金を得ることができないために何もすることはできずと感ずるのであれば、立ち止まってその日、その一日は主の日であることをその人に考えさせなさい。彼は主の僕であるから主の時間を浪費すべきではない。わたしは何かをすることでその時間を費やし、神のはたらきを前進させるために、わたしが得るすべてのものを差し出そう。わたしは何もしない者として数えられることはないであろうと考えさせなさい。

人が神を最高に愛し、隣人を自分自身のように愛するとき、自分がすることのできる多くの収入をもたらすかあるいはわずかしかもたらさないかを問うために立ち止まることをしない。彼はその働きをし、提供された賃金をこころよく受け取る。自分が受け取るはずだと思ふ多額の賃金を期待できないからといって仕事を拒むようなことはしない。

主は、同胞に対するふるまいにおける原則によって人の品性を判断される。通常の商取引においてその人の原則に欠点があれば、神のための霊的な奉仕にも同じことがもたらされる。糸はその人の全宗教生活に織り込まれている。もしもわずかな賃金で自分自身のために働くことが沽券(こけん)に関わるのであれば、ご主人様のために働きなさい。主のさい銭箱にその収入を入れなさい。あなたの命を助けるために神に感謝の捧げものをしなさい。しかしどのような評価においても怠惰であつてはならない。(原稿 20, 1896年6月1日)

6月2日

度量の大きいわたしたちの主

「だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。」(マタイ 6:24)

新たにされていらない心について、また墮落した世については、すべての物が自分自身のものを求めているとはっきり記されている。利己心が、わたしたちの墮落した性質の偉大な律法である。利己心はキリストが王座を占めるべき魂のうちに場所を占めている。しかし主は完全な服従を要求なさる。そしてもしわたしたちが真にこのお方にお仕えしたいのであれば、わたしたちの思いには、このお方のご要求に応えるか、あるいは自分自身のこの世の利益を求めるかに関して、迷いはないのである。

栄光の主は、人間自身の不服従から彼らを救うために、ご自分が最高司令官の地位を離れ、悲しみの人となり、病を負われ、屈辱と死をお受け入れになったときに、ご自分の都合や楽しみをお考えにはならなかった。イエスは、人を罪のうちに救うためではなく、罪から救うために死なれたのである。わたしたちは自分自身の道の過ちを捨て、自己を否定し、どんな代価を払っても神に服従することによって、自分の十字架を負い、キリストに従わなければならない。

神に仕えると公言しながら、実は富に仕えている人々には、裁きが訪れることになる。だれ一人として世の利益のために不服従の道をたどりながら、義とされることはない。もし神がだれかを容赦なさるとすれば、このお方は全員容赦してくださるはずである。主が個人的な利益のためにはっきりと禁止されたことを無視する人々は、自分自身の上に将来の悲痛を積み上げているのである。キリストは「『わたしの家は、すべての国民の祈の家となえらるべきである』と書いてあるではないか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしてしまった」と仰せになった(マルコ 11:7)。神の民は、自分たちが昔のイスラエルのように神の家を商売の場所としていないか厳密に吟味すべきである。

多くの人々が世俗的な利益のために自分たちの宗教を犠牲にする罪に陥っている。彼らは敬神の形式を守っているが、思いはすっかりこの世の営みに没頭している。しかし神の律法を何よりもまず考慮し、実質ともに従わなければならない。わたしたちの偉大な手本であられるイエスは、ご自分の生死において、厳密な服従をお教えになった。このお方は、自らは義なるお方であるのに不義なる人々のために、罪のないお方であるのに罪人のために死なれたのであった。それは、神の律法の誉れが守られながら、なおかつ人が完全に滅びてしまわないためであった。……

神は人の幸せを促進し、その永遠の富を確保することのできるものは何ひとつさし控えられなかった。このお方は地を美で覆われ、人が地上の生涯で快適さのために必要なものはすべて備えて下さったのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1887年6月2日)

6月3日

戸はまだ開いている

「これは、主が知恵を与え、知識と悟りとは、み口から出るからである。」(箴言 2:6)

わたしたちの世界のように、真理と偽りがあまりにも緊密に交じり合い、それらを見分けることが難しい世界では、天から知恵を求めることを怠るのは危険なことである。いま注意を払い、自分たちの立場を真理の基礎の上におくことによってただちに主に向かう人々は、許しを受ける。すべての誤りは真理と混ぜ合わされており、このためにサタンの欺瞞を見抜くのが難しくなっている。しかしテストと試練の時がわたしたちに臨むとき、義人の義と悪人の悪との間には違いが見られる。

すべての誤りは罪であり、すべての罪の起源はサタンにある。悪い習慣が目を曇らせ、男女の知覚機能を損なっている。わたしたちは今、あらゆる点において守られる必要がある。……

世の住民たちは、サタンの指導下で、焼かれるばかりに束にたばねられつつある。わたしたちには一瞬たりとも失う時間はない。神のさばきは地に臨み、神が送られる警告に説得されない強情な者たちは、焼かれるばかりに束にたばねられることになる。牧師も信徒たちもぶどう畑に出て行きなさい。彼らは、忘れられている聖書の真理を宣布するところでは、どこでも自分たちの収穫を見出すようになる。男女の伝道者が必要とされている。真理を受け入れて、魂をキリストに勝ち取るために自分たちの教師のかたわらに立つ人々を彼らは見るであろう。……

群衆が囲いに集められなければならない。真理を知ってきた多くの人々が、神のみ前で自分たちの道を腐敗させ、信仰から離れてきた。空いた隊列は、キリストによって五時ごろに来た人々として象徴されている者たちで満たされるようになる。神の御霊がそのために苦闘している人々がよくある。

神の滅びのさばきの時は、何が真理であるかを学ぶ機会のなかった人々にとって憐れみの時である。主は彼らをやさしく見ておられる。このお方の憐れみの心は動かされる。入ろうとしない人々には戸が閉ざされている一方で、このお方の手はまだ救うために伸ばされている。この終わりの時代に真理を初めて聞く多数の人々が入ることを許されるのである。(手紙 103, 1903年6月3日、米国とオーストラリアでEln・G・柯什と共に働いた大変な経験のある働き人たち、ジョージ・B・スター-長老夫妻へ宛てて)

6月4日

だれにも欺かれてはならない

「人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、自分勝手な好みにまかせて教師たちを寄せ集め、そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれていく時が来るであろう。」(テモテ第二 4:3, 4)

キリストの初臨の前に、宗教教師たちは奇妙な考えを打ちたてたが、それらはある部分の真理と混ぜ合わされたために欺瞞的な力に満ちていた。そして、彼らは神の真の礼拝者であるかのような外見を保ってはいたが、多くの魂を神から迷いさせた。わたしたちはこの終わりの時代に似たような社会の状態を見出す。そして信仰から離れてしまった人々は、自分たちの信念に人間の意見の多様性を混ぜ合わせる。聖書は批判される。牧師たちがその解釈にこれほどの開きがあるのは、聖書が一貫せず、矛盾しているからであろうか。-- 否、問題は人間が今日も、キリストの時代にしていたのと同じことをして、人間のいましめを教理として教えているからである。宗教の教師たちはキリストが「あなたがたは聖書も神の力も知らない」と仰せになったときのパリサイ人たちと同じ状態にある(マタイ 22:29 参照)。まさにこれらの言葉を言われた人々が、聖書を民に教え、解釈するものと思われていた。

聖書はあやふやで首尾一貫しないものであろうか。宗教界で信用を得ている矛盾した意見、また様々な見解や教理の基礎となるようなものが何かあるであろうか。もしそうであれば、わたしたちは聖書が神に由来するものか疑ってもよい。なぜなら、民を様々な意見に至るようにと導くのは、神の靈感ではないからである。聖書の解釈を引き受ける人々は、神の真理を人間の発明や教理に合わせようとすることによって、神のみ言葉を改悪し、聖書の本当の意味を曲解してきた。聖書はゆがめられ、誤って適用され、そして真理の宝石は誤りの枠組みの中にはめられてきた。これらの教師たちは盲目であり、聖書の真の意味が何かをはっきりと識別することができないのである。……

人を救うためにご自分の命をお与えになったイエスは、わたしたちに終わりの時代に起ころうとしていることに関して警告を与えてこられた。弟子たちは世の終わりのことに関してイエスに尋ねようとひそかにやってきた。そこでイエスは言われた。「人に惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がキリストだと言って、多くの人を惑わすであろう」(マタイ 24:4, 5) (サイン・オブ・タイムズ 1894年6月4日)

個人的な準備

「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」(ヨハネ 13:34)

これらは人の言葉ではなく、わたしたちの贖い主の言葉である。そしてわたしたちがこのお方下さったご命令を果たすことは何と重要なことであろう。愛の欠乏ほど、教会の感化力を弱めることのできるものはない。キリストは「わたしがあなたがたをつかわすのは、羊をおおかみの中に送るようなものである。だから、へびのように賢く、はとのように素直であれ」と仰せになった(マタイ 10:16)。もしわたしたちが狼として表されているわたしたちの敵の反対に会わなければならないのであれば、わたしたちは自分たちの間では同じ精神をあらわすことがないように注意しよう。

敵は、もしわたしたちが互いの愛をもっていないならば、自分の目的を果たすことができ、そして兄弟間に相違を引き起こして教会を傷つけ、弱めることができることをよく知っている。敵は彼らに邪推させ、悪口を語らせ、互いに告発させ、非難させ、憎ませることができる。このようにして、神のみ働きは恥をこうむるようになり、キリストの御名は責められ、そして人の魂に計り知れない害がなされるのである。

わたしたちは、自分たちの言葉や行動がことごとく、神から自分たちに委ねられた聖なる真理と調和しているように、いかに注意深くあるべきであろう。世の人々は、わたしたちの信仰がわたしたちの品性や生活に何をなしているかを見ようと、わたしたちに目を向けている。彼らはそれがわたしたちの心に聖化の効果をもっているかどうか、わたしたちがキリストに似た者に変えられるかどうかを見ようと見張っている。彼らはわたしたちの生活にあるすべての欠点、わたしたちの行動にあるすべての矛盾を発見する用意ができています。わたしたちの信仰が責められるようなすきを彼らに与えないようにしましょう。

わたしたちを最も危険に陥れるのは、世の反対ではない。わたしたちの最も嘆かわしい最悪の事態をもたらすのは、わたしたちのただ中でいだかれる悪である。真理の働きを遅らせ、神の教会に闇をもたらすのは、二心の自称信徒の献身していない生涯である。……

神はご自分がその愛をわたしたちの上にお与えになることのできる場所に、わたしたちが個々に来ることを望んでおられる。このお方は人間に高い価値をおいて、わたしたちをご自分のひとり子の犠牲によって贖ってくださいました。そしてわたしたちは自分の人類同胞をキリストの血で買われたものとして見なければなりません。もしわたしたちがこの愛を互いに持っているならば、わたしたちは神と真理に対する愛のうちに成長するのである。(ビュー・アヴ・ヘヴル 1888年6月5日)

6月6日

救いの代価

「わたしの子よ、主の訓練を軽んじてはいけない。主に責められるとき、弱り果ててはならない。主は愛する者を訓練し、受け入れるすべての子を、むち打たれるのである。」(ヘブル 12:5, 6)

キリストはわたしたちの模範であられる。このお方は困難にさらされていた。このお方は苦難に耐え、人性を取られるまでにご自分を低くされた。キリストは短気を起こさず、不信をいだかず、つぶやくことなくご自分の重荷を負われた。このお方は神聖な神のみ子であられたにもかかわらず、試練をお感じになった。あなたは神のみ子にのしかかったほどの重さがある問題や困惑また困難にあつてはいない。このお方の心がさらされたほどの悲しみにあつてはいない。このお方の気持ちはあなたと同じように傷つきやすかった。しかし、キリストの生活と品性は非の打ち所がなかった。このお方のご品性は道徳的な卓越さからなっており、すべて純潔なもの、真実なもの、愛すべきもの、また称賛に値するものを含んでいた。

神はわたしたちに完全で欠点のない模範(パターン)を与えてくださった。神はあなたを有能で敏腕(びんわん)な働き人にしようと計画しておられる。このお方が計画された思いは精練され、高められ、高尚にされるべきである。もし思いを些細なことに用いるままにするならば、変わらない法則の結果として、それは弱まってしまう。神はご自分の僕たちが自分の思考範囲と働きの計画を広くし、壮大で、人を高め、高尚にする事柄との生きたつながりに自分の力を注ぐようにと望んでおられる。これによって、知的機能に新しい原動力が与えられる。その人の思想は広い視野を持つようになり、そして彼は、底も岸もなく深くて広い水の中を泳ぎつつ、より広く、深く、大きな働きの任務のために、自分のエネルギーを蓄えるのである。……

神は人間が自分自身の状態を正しくわからないときにも、彼らの心と品性をご存知である。神は、見守られていないために正されることもない彼ら自身のうちにある悪が正されないならば、ご自分の働きと大義が損害を受けることをご存知である。キリストは、もしわたしたちがキリストの命じられることをなすならば、わたしたちをご自分の僕とお呼びになる。すべての人に他ならぬその人の領域、場所、そして働きが割り当てられており、神は最も低い者から最も高い者まで、自分の召しを果たすこと以上をも以下をもお求めにならない。わたしたちは自分自身のものではない。わたしたちは恵みによってキリストの僕となったのである。わたしたちは神の御子の血で買われたものである。(手紙 16, 1875年6月6日、世界総会の前総理、G・I・バトラー長老へ)

6月7日

このお方の恵みは十分である

「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされる場所だからである。」(ピリピ 2:12, 13)

わたしたちには一人ひとりみな、自分自身の救いのためになすべき働きがある。それは神のすべてのご要求に応えることである。神は働きが自分のためになされるべき人間の協力と無関係に何かをなさることはない。このお方の恵みは、すべての約束を果たすことにおいて、ご自分のものである人々のうちに、また彼らと共に働くのに十分である。しかしその一方でこの恵みが提供される人はすべてのご命令に従わなくてはならない。

神のご要求の効力が、このお方の民を世から出て、分離させ、実を結ばないやみのわざに加わらないようにさせなければならない。聖潔さなしには、「だれも主を見ることはできない」(ヘブル 12:14)。「おおよそ世の友となろうと思う者は、自らを神の敵とするのである」(ヤコブ 4:4)。

主がわたしたちと共に働いておられる間、わたしたちは自分自身のために働いていなければならない。主がわたしたちのところへ、譴責や、訓告、警告をたずさえたご自分の僕たちを遣わされる時、わたしたちはそれが博識な人からのものではないからと言って、背を向けて、メッセージを受け入れることを拒んではならない。わたしたちはこのメッセージは必要ないと言ってはならない。神の使命者によってあなたに送られるすべてのメッセージはあなたの益のためであり、あなたにもっと完全に救いの道を教えるためである。神は、もしご自分の委任された使命者を通してでなければ、ご自分のみ旨を人間に伝えるためにいったいどんな手段をお持ちであろう。またあなたは自分を喜ばせるメッセージの一部を選び、また自分の進路を阻むものを拒むことを恐れないのであろうか。

あなたは自分の疑いを表現してはならない。それらはサタンのはのめかしである。もし神があなたに手を差し伸べるために用いてこられた方法や手段を、あなたが尊重しないのであれば、あなたの問題に手を差し伸べるためにこのお方にどんな手段があると考えているのであろうか。あなたたちの間に、神の牧師を批判するという重大な過ち、すなわち、使徒がその働きのゆえに高く尊重しなさいとあなたがたに命じてきた人々について軽率に話すという過ちがなかったであろうか。ごく限られた経験しかない男女が、まさに神の定められた手段、すなわち神の牧師たちによって助けられることを拒むのであろうか。……

あなたたちがしてきたように、これらの人々について無礼に話すことを自らしていながら、あなたたちは自分の子供たちが神の使命者に対して、どのような敬意をもつようになると考えているのであろうか。(原稿 37, 1887年6月7日「神と協力して」)

6月8日

今日行って働きなさい

「主を恐れることは知恵のもとである、聖なる者を知ることは、悟りである。」(箴言 9:10)

能力はすべての魂に委ねられてきた。これらは忠実な奉仕によって向上させられるべきタラントであり、それはキリストが再臨のときにご自分のものを利子と共に受けられるためである。

わたしたちは世が科目だとみなしている高等教育について多く聞く。しかしキリストの生涯の中で教えられ、また例証された高等教育について無知である人々は、高等教育が何によって成り立っているのかについて無知なのである。高等教育とは救いの条件に一致することを意味する。そこには日ごとにイエスを眺める経験、また滅びつつある人々の救いのためにキリストと共に働くことが含まれている。

怠惰は罪である。なぜなら、そのために労すべき世があるからである。キリストは墮落した者、また罪深い者たちを引き上げる働きのためにご自分の命をお捧げになった。このお方は天の君であられたにもかかわらず、墮落した人類の虐待とあざけりの下で生き、苦しみ、死なれた。そしてこれはこのお方が人類家族を天の宮廷の住まいのために準備なさるためであった。キリストは最高級の教えをお授けになった。わたしたちはこのお方との協力において得られる教育より高い教育など想像できようか。

今はわたしたちの働く時である。万物の終わりが近づいている。まもなくだれも働くことのできない夜が来る。この夜は多くの者が考えているよりもずっと近い。カルバリーの人を、罪のうちに生きている人々の前に掲げなさい。筆舌を尽くし、高等教育に関して人々の思いを占めている誤った考えを一掃しなさい。すべての働き人にキリストは次のご命令を与えておられる。今日行って、わたしのぶどう畑で、わたしのみ名の栄光のために働きなさい。墮落に苦しんでいる世の前に、真の高等教育の祝福を示しなさい。すべての信者から光が輝き出なければならない。弱った者、重荷を負っている者、心の砕かれた者、困惑している者は、キリスト、すなわちあらゆる霊的命と力の源を指し示してもらわなくてはならない。……

高等教育を求めなさい。それは、神のみ旨への完全な一致である。そうすれば、あなたがたはそれを受ける結果としてもたらされる報いを確実に刈り取ることになる。あなたがたが毎時間、神からの祝福を受ける者となることのできる立場に自らを置くならば、主の御名はあなたがたの生活において大いなるものとされるのである。(手紙 102, 1909年6月8日、バトル・クリークとペリエン・スプリングスの前教育者であったが、今はテネシー州のマディソンの学校にいる E・A・サガ - ラッドと P・T・マゴンへ)

福音を着る

「わたしは彼のくちびるの命令にそむかず、その口の言葉をわが必要な糧にまさってたくわえた。」(ヨブ 23:12 英語訳)

自分たちに語られた神の声として聖書を読む人たちだけが、真に学んでいるのである。彼らは神のみ言葉に震える。なぜなら、それは彼らにとって生きた現実だからである。彼らは研究し、隠れた宝を探す。彼らは受けるために自分たちの理解力と心を開き、そして自分たちが将来の永遠の命の準備を取得することができるように、天の恵みを祈り求める。

天のともしが人の手におかれると、その人は自分自身のもろさ、自分の弱さ、自らのうちに義を見出す希望はまったくないことを悟る。自分自身には自らを神へ贖うことのできるものは何もない。彼は、あらゆる真理へと自分を導く絶えざる自分の導き手となって下さるように、キリストの代理であられる聖霊を祈り求める。
.....

単なる真理への同意は聖書の宗教ではない。……自己の義の武具に身を固め、御使の手にかまえられた鋭くて真実な主の矢が貫くことのできない心を持ったクリスチャンが多くいる。真理は滑り落ち、魂は傷つかない。人はまず自分で神を求めなければならない。そのとき、聖霊は貴重な真理、すなわち、宝石にまさってきわめて貴重な真理がイエスの唇から語られるときに、その生きた力を従順な心に伝えるのである。真理は心に受け入れられると、よみがえらせる力となり、すべての機能を目覚めさせる。心の琴線に触れ、純粋な感謝と讃美のうちに唇からあふれでる天来の音楽を創造するのは、神の感化力である。

ああ、真理を信じると公言している多くの人々の思いを目覚めさせ、彼らが愛によって働き、魂をきよめる信仰によって福音を着ることができるよう、わたしは何を言うことができるであろう。キリストはあなたに、あなたの暗くなった魂を照らすお方としてご自分を眺めるようにとお命じになる。……

人間は好奇心から、知識の木を探し求めてきた。そして彼らはしばしば、自分たちが最も重要な実をもぎっていると思っているときに、ソロモンの探求のように、それがまったく虚しく、自分たちに神の都の門を開かせる真の聖潔の科学と比べると何の意味もないことを知るようになるのである。……

すべての人は自分にとってこの世の生涯における偉大で重要な働きとは、神に似たみ姿を受けること、すなわち将来の命のために品性を準備することであることを学ばなければならない。彼は天の真理を実生活において、自分の特別な用途に用いなければならない。(原稿 67, 1898 年 6 月 9 日「聖書を調べなさい」)

6月10日

収穫の時

「なお、あなたがたは時を知っているのだから、特に、この事を励まねばならない。すなわち、あなたがたの眠りからさめるべき時が、すでにきている。なぜなら今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか。」(ローマ 13:11, 12)

わたしたちは人類という偉大な織物の一部をなしており、キリストが世における権威者となられるために、相互の影響が、教会の中ばかりではなく、天の家族や地上の家族と入り混じって、次々と伝わっている。父祖たちや預言者たちに伝えられた真理の宝石はすべて、時代から時代へ、また世代から世代へと蓄積されてきたのであるが、代々の委託物としてみな集められなければならない。

現在と過去の世代の神聖な感化は、血肉に対してではなく、もろもろの支配と、権威と、また天上にいる悪の霊に対する戦いに対して立つことができる神のための強くて力のある作用である。今日の神の民はかつての世代のすべての特権と機会を持ち、また、先立つこれまでの世代の人々よりも、神の働きにおいて彼らを力強い者とするさらに大きな光を持っている。これらの有利な点はそれ相応の見返りを要求する。他の人々の前に道を開くためのわたしたちの努力は、わたしたちの天の宝に相応したものでなければならない。

主は近い。天の知的存在者たちは、地の聖化された感化力と一つになって、第三天使のメッセージを宣布し、警告を発しなければならない。万物の終わりが近づいている。「もうしばらくすれば、きたるべきかたがお見えになる。遅くなることはない」(ヘブル 10:37)。民は主の日に立つために整えられなければならない。そして、立つためにすべて準備が成し遂げられなければならないのである。都市や村に密集して固まっている人々は、深刻な間違いを犯している。このようにして、ますます輪を広げていき世の果てまで届かせることによって自分たちの感化力を広めることをなおざりにしている人々は、自分たちの義務の持ち場に立つことをなおざりにしているのである。……

キリストはご自分の昇天の直前に、ご自分の弟子たちのために祈られて、次のように言われた。「わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります」(ヨハネ 17:20, 21)。ああ、これらの祝福された言葉がすべての人の心に神の指によって記されるように。(原稿 7, 1891年 6月 10日「生ける教会におけるクリスチャンの奉仕」)

辛抱強い祈り

「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるしのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。」(ペテロ第一 5:8)

わたしたちには戦うべき狡猾な悪魔がいる。キリストだけが力強く十分に彼の力に対抗できるお方である。それゆえに、わたしたちは毎瞬間、わたしたちと共にイエスにいていただかなければならない。わたしたちは眠たげで愚かであるために、無用心な足元にしかけられたサタンの方法やわなや誘惑に気づかない。それゆえに、わたしたちはすべての動きが神のうちにあるように、どのように歩を進めるかを知っていなければならない。ここに自己が言うことを聞かせようとして割り込んできてはならない。

魂の破壊は、地上でサタンとその使たちがつねに従事している仕事である。魂の救いは、どんなに弱くても、キリストに従うすべての人の働きである。〔人の〕利己的な関心が第一となり、魂の救いがせいぜい第二とされる時、人はサタンの側で働いているのである。なぜなら、彼の見せかけそのものが他人に道を踏み誤らせるわなであり、彼らにまず神の国とその義とを求めないようにさせるからである。サタンはこれらの働き人たちの機(きせん)先を制している。魂の救いが、いつも第一とされるべきである。なぜなら、サタンはほえたけるしのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っているからである。わたしたちは魂を彼の道から救出しなければならない。わたしたちにははつきりとした洞察力、識別力、そして信仰がなくてはならない。そして滅びつつある命、すなわちわたしたちの側の何らかの不注意によって死んでしまうかもしれない命を救うために働かなければならない。

伝道の働き、これが何であるか、またわたしたちがこれにどのように携わらなければならないかを、わたしたちが理解するのを神は助けてくださる。すべての伝道者は完全に主のものであるべきであり、クリスチャン品性の完全を得るために前進するべきである。敬神の旗印が高く掲げられなければならない。あらゆる種類の偶像礼拝は犠牲にされなければならない。魂、すなわち貴重な魂が救われなければならないのである。……

ある人は、スコットランドの教会が信仰を妥協し、自分たちの断固たる原則を譲歩するためのある決議をしようとしていたとき、一点一点も譲歩しないと決心した。彼は神のみ前に行ってひざまずき、そして次のように嘆願した。「スコットランドをください、さもなければわたしは死にます」。彼のねばり強い祈りは聞かれた。ああ、信仰の熱心な祈りが至る所で上のように。「いま誤謬のごみの中に埋もれている魂をわたしにください、さもなければ、わたしは死にます」。彼らをイエスのうちにあるがままの真理の知識へ連れてきなさい。

わたしたちは自分たちの心に魂の重荷を負わなければならない。すべての利己的な配慮はこれに取って代わられなければならない。キリストの血の値は魂の価値を示している。(手紙 20, 1883年6月11日 W・G・柯什へ)

6月12日

ご自分の教会に対する神の保護

「さて兄弟たちよ。あなたがたに勧告する。あなたがたが学んだ教にそむいて分裂を引き起し、つまずきを与える人々を警戒し、かつ彼らから遠ざかるがよい。」(ローマ 16:17)

世のどの時代においても、自分たちには主のためになすべき働きがあると思いながら、主がお用いになってきた人々には何の敬意も示さない人々が存在してきた。彼らは聖句を正しく適用せず、自分自身の意見を支持するために聖書を曲解する。自分自身の考案した理論を宣布するために、組織から引き離す人々の主張がどのようなものであったとしても、彼らはサタンサタンの奉仕をしているのであり、魂をこの時代の真理からそらさせるための新しい仕掛けを作っているのである。

教会を公然と非難することに重責を感じて立ち上がる人々に気をつけなさい。立って世からの反対の嵐を突き進んでいる選ばれた人々、そして踏みにじられた神の律法を聖なる誉れあるものとして高めるために、それらを掲げている人々は、真の世の光である。

主がご自分の民に光をお与えになるとき、それは光である。……これらの人々は主がご自分のへりくだった僕にお委ねになったものを横領し、……それらを自分たちの誤謬の枠にはめ込み、それを、教会すなわち神の戒めを守っているこのお方の選ばれた民がバビロンであり、そこから出るようにという「大いなる叫び」を伝える天からの神のみ声であるかのように見せかける権利はない。……

だれでも信仰において本物の経験をもっている人がこのような誤った聖句の解釈を神の戒めを守る民にあてはまるものとして考えることはほとんど不可能のようである。……

わたしはあなたに告げる。兄弟よ、主はご自分がそれを通して働かれる組織された体を持っておられる。彼らのうちには二〇人もユダがいるかもしれない。試練の時には主を否定する性急なペテロがいるかもしれない。イエスに愛されたが、キリストや真理に対する侮辱に復讐するために人々の上に天から火を呼び求めることによってその命を滅ぼそうとするような熱意をもったヨハネに代表される人々がいるかもしれない。しかし、偉大な教師はこれらの実存している悪を正すために指示する教訓を与えようとしておられる。このお方は今日もご自分の教会に同様になさる。このお方は彼らの危険を指摘なさる。このお方は彼らの前にラオデキヤのメッセージを提示しておられる。……

あなたの全心をもってキリストの祈りをこだまさせなさい。「聖なる父よ、わたしに賜わった御名によって彼らを守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。……」。このお方がお捧げになった祈りはまた、このお方が聖化される工程も説明している。「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります」。(原稿 21, 1893 年 6 月 12 日)

6月13日

支えてくださる御霊

「神はあなたがたにあらゆる恵みを豊かに与え、あなたがたを常にすべてのことに満ち足らせ、すべての良いわざに富ませる力のあるかたなのである。」(コリント第二 9:8)

わたしたちは〔エレン・ホワイトはカリフォルニア州のサンノゼで夕刻の伝道集会を手伝っていた〕、五時に起床し、六時半に食事をとった。それから男の人が一行をテントへ連れて行き、一時間半を聖書クラスに用いて、共に語ったり、自分たちの前日の経験を比べたりして、彼らが培うべき規則正しい習慣と品性におけるすべての欠点に打ち勝つ必要に関して教えを受けた。彼らにとって、これはみな非常に必要としていた学校であった。

某I氏たちは、気質のよい男の子たちであったが、非常に欠陥があった。秩序がなく、心を配るべき最も小さな義務を怠り、自分たちの面前にあることも正しくなせずに放っておいた。今こそ彼らにとって働きに対する適性を身につけるか、あるいはそれをやめて、彼らが均整の取れた品性を発達させるまで何の注意も払われることのなかった彼らの教育の一部にとりかかる時であった。これがなされてしまうまでは、彼らは決して一人で行ったり、何かをしたりするのにふさわしい者となれない。わたしたちはみなもっと神の御霊を、もっと熱心な信仰を、もっとたえまない熱心な祈りを必要としている。それはわたしたちが、わたしたちの最上の働きの嘆かわしい不完全さと、神の標準にまったく応じられない自分自身の無力さを識別できるためである。

ああ、魂を救う働きの偉大さよ。それを感じる者が何と少ないことか。キリストに魂を集めるために自分のなし得ることをみな行っている者の何と少ないことであろう。サタンは自分の力をつくして、辛抱強く、勤勉に、うむことを知らずに働いているが、その一方で、真理を公言している多くの人々が眠っており、魂を救うために何もしておらず、自分たちが公言する真理に生きてさえいないのである。民を満たすのは無気力な証ではない。わたしたちは神を通して民の心にふれなくてはならない。わたしたちは、陶器師の手のうちにある粘土のように形作られるために、神のみ手のうちで柔軟でなければならない。戦いのいかなる時にも、試練のいかなる時にも、神の恵みは十分である。わたしたちはもっと固く神をつかもう。このお方の御霊は助けてくださる。このお方の御霊は強め、支えてくださる。

わたしたちが神に近づけば近づくほど、自分自身の無価値さを自覚し、ますますイエス・キリストにより頼むことを学ぶ。そのとき、わたしたちはイエスの愛の証拠をはっきりと自分のものとする。わたしたちは、神のみ摂理のご命令のうちに表された神のいつくしみ深さと憐れみを認めるのである。(手紙 21, 1883年6月13日、W・C・叔父へ)

6月14日

進入通路を守りなさい

「涙をもって種まく者は、喜びの声をもって刈り取る。種を携え、涙を流して出て行く者は、束を携え、喜びの声をあげて帰ってくるであろう。」(詩篇 126:5, 6)

何度もわたしたち〔ジェームズおよびエレン・ホワイト〕は、期待しては失望するが、しかしその後、わたしたちは自分たちの努力と共に主が働いて下さり、魂がキリストの許へ来ることを知るとき、わたしたちは疲れや失望やこの働きに関連して直面した試練を忘れ、神からこれにあずからせて下さる誉れを受けたと感じるのである。わたしたちは〔アイオワ州で行われたキャンプミーティングで〕、意気消沈し、ほとんど絶望していた人たちと共に非常に貴重な祈りの時間を持った。光が魂の暗くなった部屋に差し込んだとき、わたしたちは彼らと共に喜んだ。主は実にわたしたちの心を励まし、そしてわたしたちの大いなる働きのためにわたしたちを強めてくださった。わたしたちはこの集会の結果として、神の栄光に実が豊かであろうことを確信している。

わが子よ(エドソンとエマ)、神が誤謬の闇のうちにある魂を真理の知識へと導いて下さるように、あなたたちの祈りがわたしたちのために天に昇るようにしなさい。光、すなわち尊い光が神のみ言葉のすべてのページの上に輝いている。それはわたしたちの相談者である。わたしたちが自分たちの義務を学びたいとの心からの願いをもってそのページを研究するときに、御使たちはわたしたちのすぐそばにいて、思いを印象づけ、神のみ言葉のうちに表された神聖な事柄を識別できるように想像力を強めてくださる。

すべての考え、言葉、また行動を、わたしたちは神の啓示されたみ旨にかなうかを照らし合わせるべきである。万事において、問うべきことは、これは神に喜ばれるであろうか、である。それは神のみ言葉の教えに一致しているであろうか。そして義務に対して思いの中に優柔不断さがあるとき、わたしたちの生来の心は、傾向にしたがって怠ることを請う。しかしわたしたちは、それにはどんなに多くの自己犠牲が伴うとしても、いつも安全な道を選ぶようにしよう。わたしたちはいつも永遠の利益が関わる場所では、どんな危険も冒さないと決心しよう。……

愛するわが子、エドソンよ、忠実にあなたの思想を守りなさい。あなたの心への進入通路を一つ一ついつも防備していなさい。あなたはサタンの接近に対してかんぬきをかけなければならない。他をなおざりにしながら、ある一点だけをよく見張っていても役に立たない。ひとりの歩哨の不注意な怠慢は、軍全体を危険に陥れる。要塞に通じる一つの道を守ることを怠れば、都市全体の損失となることがわかるであろう。……わたしたちの前には直面しなければならない危険がある。そしてわたしたちの安全はただ神のうちにある。(手紙 32, 1876年6月14日、エドソンおよびエマ・ホワイトへ)

6月15日

朽ちることのない嗣業

「すべての人を救う神の恵みが現れた。そして、わたしたちを導き、不信心とこの世の情欲とを捨てて、慎み深く、正しく、信心深くこの世で生活し」(テトス 2:11, 12)

神の御使たちが神のみ旨を知る以上に高い知識を得ることはない。そして、天の御父の完全なみ旨を成し遂げることが彼らの最高の喜びなのである。墮落した人類には、神のみ旨に関して知的になるという特権がある。恩恵期間が与えられている間に、わたしたちがなり得るものにはすべてなることができるように、わたしたちは自分の機能を最大限に用いるべきである。そしてわたしたちは知性の高い標準に到達するために努力する一方で、自分たちが神に依存していることを感じるべきである。なぜなら、このお方の恵みなしには、わたしたちの努力は永続する利益をもたらすことができないからである。わたしたちが勝利者となるのは、キリストの恵みを通してである。このお方の血の功績を通して、わたしたちはその名前が命の書から消し去られることのない人々の数のうちに入らなければならない。最終的に勝利者となる人々は、神の命と平行して続く命を持つようになり、そして勝利者の冠をつけるのである。このような偉大な永遠の報いがわたしたちを待ち受けているのだから、わたしたちはわたしたちの信仰の創始者であり、完成者であられるイエスを仰ぎ見つ、耐え忍んで走るべき行程を走るべきである。

わたしたちは、朽ちることのない嗣業と永遠の財産を得るために、あなたがたがこの恩恵期間の生涯のうちに勝利者とならなければならないとあなたがたに告げるのをためらったりはしない。魂に汚点やしみをつけるものはすべて取り除かれ、心から清められなければならない。わたしたちは、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるということが何を意味するかを知らなければならない。あなたは肉の欲に対して戦うことを望んでいるであろうか。あなたは神と人の敵に対して戦う準備ができているであろうか。サタンはできることなら、すべての魂を奴隷にしようと決意している。なぜなら、彼はキリストと永遠の命から人の魂を奪い取ろうと必死のゲームをしているからである。あなたは彼があなたから神の御霊の恵みを盗み取り、彼自身の墮落した性質をあなたに植えつけるのを許してしまうであろうか。あるいはあなたは救いの大いなる摂理を受け入れて、あなたのために払われた無限の犠牲の功績を通して、神性にあずかるものとなるであろうか。神はご自分のひとり子を与えてくださった。それはこのお方の恥と、苦悩と、死を通して、あなたが栄光と誉れと不死を得ることができるためである。(サインズ・オブ・タイムズ 1891年6月15日)

6月16日

十字架の不思議

「あなたがたのよく知っているとおり、あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである。」(ペテロ第一 1:18, 19)

今日はアイオワ州の人々にとって良い日であった。わたしたちの集会は一時くらいになるまで閉じなかった。……受け入れるすべての人々のための救いと贖いの尊い賜物はあまりにもすばらしく思え、わたしたちの限られた理解をはるかに超えていたので、言葉はあまりにも精彩を欠いて、世の贖い主によってわたしたちの手の届くところにもたらされた無限の祝福を描写することはできなかった。このお方の偉大さがわたしたちの弱々しさにまでへりくだられたのである。

イエス、尊い救い主。わたしたちは墮落した世のためにいとしいご自分のひとり子を死に渡された御父の愛を研究することができる。わたしたちがカルバリーの十字架の光のうちに言い表せない愛を研究するとき、わたしたちは驚嘆とおどろきに満たされる。わたしたちは憐れみ、やさしさ、そして許しが正義と尊厳と力に調和して混ぜ合わされているのを見る。イエスは罪人にご自分を見て生きるようにと命じておられる。このお方は「わたしはすでにあがないしを得た」と仰せになる。罪によってできた破滅の深淵はカルバリーの十字架によって橋がかけられた。忍耐強く信じる魂は、お許しになる御父がわたしたちをカルバリーの十字架によってご自身に和解させておられるのを見ることができる。

キリストの知識は罪の深みとその恐るべき性質とを明らかにするが、その一方でわたしたちは信仰によって、清めの流れ、すなわちすべての罪のしみや汚点を洗い去るキリストの血を見る。この救いは半分も感謝されていない。イエスの血を通してわたしたちにもたらされた救いは計りしれない価値のあるものとして評価されていない。信仰によってこの賜物が、イエス・キリストを通して与えられる神の大きい賜物として完全に受け入れられなければならない。わたしたちの罪と悲しみの重荷は、恵み深く許し、力強く救うお方の上に置かれたのである。

わたしたちはなぜこんなにも冷たいのであろうか。なぜこんなにも世俗的なのであろうか。なぜこんなにも不注意なのであろうか。なぜイエスの愛がわたしたちの心の祭壇のうえで燃えないのであろうか。このお方はわたしたちの罪とわたしたちの悲しみの重荷を担われた。なぜわたしたちにはもっと大きな信仰がないのであろうか。なぜわたしたちは完全に信頼せず、救うのに全能となるため十字架にきざづけられた御手から信仰によってすべてのものを受けないのであろうか。なぜわたしたちは、わたしたちが生きるようにとこのような無限の犠牲のうちにわたしたちに表現されたこの愛に信頼することができないのであろうか。

信仰のうちに十字架を見なさい。見て、生きなさい。これが永遠にわたって、わたしたちの研究主題となり、歌となる。(手紙 6, 1881年6月16日、エドソンおよびエマ・ホワイトへ)

6月17日

堅くつかんでいよう

「ところが、主が言われた、『わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる』。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。」(コリント第二 12:9)

わたしは昨晚、ほとんど寝なかった。わたしはイエスを仰ぎ、自分自身を偉大な医者のみ手のうちにおこうと試みた。このお方は「わたしの恵みはあなたに対して十分である」と仰せになった(コリント第二 12:9)。キリストの恵みは人々にどのような状況においても正しい言葉を語るように導く。肉体の苦痛は、キリストに似ていない行動の言い訳とはならない。

この眠れなかった時間に、勝利するという主題がわたしの思いを悩ませた。「勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である」と主は仰せになる(黙示録 3:21)。

いつでも敵の勧告のうちは歩むことに言い訳をしている人々がいる。ある人々は自分の体が弱いために、不機嫌な言葉を出したり、不快なやり方で行動したりする特権があると思っている。しかしイエスはそのような人々に誘惑に打ち勝つための備えをしてこられなかったであろうか。試練や苦悩のために、彼らは感謝しない者や聖くない者にならなければならないのであろうか。キリストの義の光線はサタンの影を追い払うのに十分なほど明るくはないであろうか。

神の恵みは、人類が闘わなくてはならないすべての災難や試練に対して十分であると宣言されている。それなのに、神の恵みは体の弱さに対しては力がないのであろうか。神の恵みは、サタンが陣を取り、犠牲者をその悪い特質の力のうちにとらえているときに、傍観しているのであろうか。

ああ、イエスに信頼する魂にとって、このお方はどれほど尊いことであろう。しかし多くの人々は、自分の信仰をサタンの陰に埋めてしまうために、闇のうちに歩んでいる。彼らはイエスの恵みを通して自分たちの力でできることをなしていない。彼らは信仰と希望と勇気を語ってこなかった。わたしたちは決して一瞬たりとも、苦しませ、悩ませるサタンの力が、引き上げ、強めるキリストの力よりも大きいとサタンに思わせるべきではない。

人は「失望せずに常に祈るべき」である(ルカ 18:1)。神に捧げられたすべての真心からの祈りはキリストの血の効力と混ぜ合わされる。もし答えが遅れるとしたら、それは誓われた神のみ言葉を要求することにおいて、わたしたちが聖なる大胆さを示すことを、神が望んでおられるからである。約束されたお方は忠実なお方である。(原稿 19, 1893年6月17日)

6月18日

奉仕における忠実さ

「ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。」(ペテロ第一 2:33)

あなたが批判やあら捜しに短気を起こさないようにと願う。しかし、もしそういうことがあれば、次のことを考慮しなさい。あなたは自分が完全ではないこと、また間違いは起こりやすいこと、また批判している当人も経験上同じような過ちがあるにもかかわらず、生涯のうちに犯した多くの間違いは疑いの誘因となること。多くの人々はこれを考えないために、結果として他人に対して無情になり、彼らに自分自身にあるのと同じような、もしくはさらに悪い弱さがあると自分で判断する。しかし、わたしたちは個々に復讐を超越した進路を維持しなければならない。

わたしたちは忠実にわたしたちの働きをし、右にも左にもそれることなく、まっすぐな道を保ち、自分たちの目をただ神の栄光に留めて進むとき、最も卓越した知恵を示すようになる。わたしたちが品性の強さを証明するのは、取り扱いにおける不正に対してわたしたちがどれほどの感情を表すかではなく、品性の強さとイエスの精神を証明するのは、自制であり、強い感情をしっかりと抑制することである。神のパラダイスのただ中にある命の木は、勝利者に与えられるものである。それは征服、骨折り、自己犠牲、そして信仰の良き戦いを戦う、働くクリスチャンに与えられる報いである。わたしたちは気高く奮闘し、勝利のために戦ってなければならない。キリストの恵みはルールに従って戦うすべての人に与えられる。

さてわが子〔エドソン〕よ、人々が言うことにはできるかぎり注意を払わないようにしなさい。彼らに言いたいことを言わせておきなさい。しかし、言葉によっても態度によっても自己をもたげていることを示してはならない。主はあなたが信頼と信用に値するとみなされるような道に進んでいくことを望んでおられる。あなたはもし衝動にかられてわれを失うようなことを許さないならば、他人に善をなすのに見合う能力を持っている。もしあなたが神に固く頼んでいる証拠をあらわすならば、あなたは尊敬と信用を得、そのときあなたは善をなす感化を及ぼすようになる。あなたは最大限にまであなたの光を輝かせなさい。あなたはイエスを表すことを求めなければならない。あなたはわたしたちの救い主がののしられたことを知っている。しかし、このお方はののしり返されなかった。このお方は侮られて人に捨てられた。そうであれば、このお方に従う者たちはこの世の生涯において何かそれ以上のものを期待できるであろうか。わたしたちの恵み深い天父がわたしたち一人ひとりの上に、ますます恵みを賜り、このお方の愛のうちにあつてわたしたちが喜ぶことができるように。(手紙 99, 1886年6月18日、エドソンおよびエマ・ホワイトへ)

6月19日

すべての教会員は伝道者である

「主は言われる、『あなたがわがしもべとなって、ヤコブのもろもろの部族をおこし、イスラエルのうちの残った者を帰らせることは、いとも軽い事である。わたしはあなたを、もろもろの国びとの光となして、わが救を地の果にまでいたらせよう』と。」
(イザヤ 49:6)

6月19日火曜日朝。わたしはちょうど自分の腕時計を見たら、2時であった。わたしは着替えて、主を求め、今朝アフリカにあてて手紙を出すための言葉をいくらか書こうとした。主が一行つづるごとにわたしを助けてくださるように……。

イザヤ 49 章を見なさい。わたしはこの全章を書き出すことはできない。それを注意深く厳粛に読みなさい。これらは何という言葉であろう。「また、〔このお方は〕わたしに言われた、『あなたはわがしもべ、わが栄光をあらわすべきイスラエルである』と」(イザヤ 49:3)。どれほど多くの人々が、最も苦しい環境の下で、施設の欠乏や資金の不足に苦勞しながら、自分たちの最善を尽くした後に、聖書にある次の言葉を述べる準備ができていようだろうか。「わたしはいはずらに働き、益なく、むなしく力を費した。しかもなお、まことにわが正しきは主と共にあり、わが報いはわが神と共にある」と(4節)。

すべての警告は与えられなければならない。真理、聖書の真理がわたしたちの大キャンプミーティングで宣布されなければならない。そうすれば諸教会が真理を聞くことができる。彼らには機会がある。すべての人が望むとは限らない。多くの人々が自己犠牲を要求するものは何でも反対する。彼らは安息日を受け入れたいと思わない。出エジプト記 31:12-18 には、神がご自分の民に期待しておられること、また拒否することの決定的な結果は死であることがはっきりと述べられている。それにもかかわらず、多くの人々は、真理には自己否定と自己犠牲が伴うために服従を拒むのである。

牧師たちの多くは、聞くことをせず、納得しないであろう。彼らはみ言葉から真理の知識を受けるために真理の聖所に入ろうとせず、かえって神のみ言葉の本来の意味をゆがめ、聖書を曲解することによって人々から知識の鍵を取り去るのである。こうして、誤謬と不服従のうちに失われまいよう人々を救うために彼らの心を得る一步一步が困難な絶えざる戦いを要するようになる。しかしやめてしまふべきであろうか。否、旗印を高く掲げなさい。神の真理の記念碑をできるかぎり至るところに打ち立て、新しい領域で働きなさい。そうすれば、改心がなされるようになる。自分たちの立場をただちに決めない人々は、自分たちの資金と同情によって働きが前進することを助け、自ら主の側に自分の立場を取るようになる。……神は世界中のすべての地域のすべての場所に代表者を持っておられる。(手紙 86, 1900年6月19日、A・G・ダニエルへ)

6月20日

栄光に満ちた嗣業

「主をほめたたえよ。その聖所で神をほめたたえよ。その力のあらわれる大空で主をほめたたえよ。その大能のはたらきのゆえに主をほめたたえよ。……息のあるすべてのものに主をほめたたえさせよ。主をほめたたえよ。」(詩篇 150:1-6)

昨日 10 時にわたしたちはこの場所、オレゴン州のイースト・ポートランドへ到着した。わたしたちのワラ・ワラからの道中、火曜日の朝、車は止まり、たいいていそうするように、マルトノマ滝のところで 20 分間止まった。ほとんどすべての人が、車から出て、このすばらしく美しい壮大な景色をよく見るために高い上り坂を登っていった。……

堤防に踏み段が作られていて、そこから狭いジグザグ道があり、さらに木の踏み段があった。わたしたちが、一番目の滝の上方の割れ目をつなぐ丸太作りの橋に着き、この上を渡っていくまで、何度もこれが繰り返された。大きな滝がこの上にあって、それはブライダル・ヴェール(花嫁の覆い)と呼ばれている。水は 900 フィート(約 275 メートル)の高さから落ちている。水が落ちるときに、それは突き出た岩の上に飛び散り、広い範囲に美しい水しぶきを散らせていた。それは美しい光景である。

わたしはこの美しい景色に囲まれたこの場所で丸一日過ごすことができたなら、とても喜んだことであろう。しかし、わたしたちは、美しく壮大な自然の景色を眺めたこのほんのひと時を感謝した。たとえ、この目的のために作られた橋の上に乗ってこれを見るために険しい上り坂を上がらなければならなかったとしても。……

わたしは詩篇記者が息のあるすべてのものに主をほめたたえるようにと、すなわち生物も無生物も被造物すべてに神への讃美と感謝のコーラスに参加するようにと呼びかけたときの彼の言葉を思い起こした。彼がこのように感覚もなく、分別もない物に呼びかけたことは、もし知性をもって祝福されている者たちの魂が輝くことなく、彼らのくちびるが神の大権と栄光を宣布しないとすれば、彼らへの最も強烈な譴責である。

「日よ、月よ、主をほめたたえよ。輝く星よ、みな主をほめたたえよ。……海の獣よ、すべての淵よ、地から主をほめたたえよ。火よ、あられよ、雪よ、霜よ、み言葉を行うあらしよ」(詩篇 148:3-8)。すべてこれらの自然の中にある神の代理人たちは、自分たちの讃美の捧げ物をいと高き者に携えてくるように召集されている。そして神の被造物の中で、すべての星がその軌道をたどるときに、すべてのそよ風が地を吹き渡るときに、そしてすべての雲が天空を暗くするとき、すべてのにわか雨と日光が、一すべてが諸天を治められる神を讃美しているときに、いったいだれが黙しているだろうか。(原稿 9, 1884 年 6 月 20 日、「マルトノマ滝への訪問」)

6月21日

すべての人への招き

「そのとき、彼らに言われた、『収穫は多いが、働き人が少ない。だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。』」（ルカ 10:2）

わたしはしばらくの間、腰と背骨が痛んで、乗車することができなかった。そして〔ヒールズバーグ大学から〕家に帰る道中、わたしは非常に弱くなった。しかしわたしの天父がわたしを強くしてくださるために、わたしはこのお方にとても感謝している。

最近、野外集会在カリスタガ〔カリフォルニア州〕でわたしたちの兄弟によって開催された。……次の集会は、もし良い場所が見つければ、セント・ヘレナの近くで開催されることになっている。わたしたちは自分たちの周りにいる人々に、救い主がまもなく来られることについて警告するためになし得ることをすべてしたいと望んでいる。わたしがこの働きに取り掛かるなら、多くの善がなし遂げられるとわたしは信じている。わたしの心は、真理を知らずに闇の中にいる人々のことを切に思っている。……

わたしは、すぐにもヨーントビルにある廃兵院（戦争で負傷し、再び戦闘に従事できなくなった兵士たちの施設）を訪問したいと思っている。数ヶ月間、働き人のグループがそこに安息日ごとに讃美歌礼拝を持つために訪問してきた。はじめは、この礼拝に出席する人は数名に過ぎなかったが、今は75名から100名が毎回出席している。時には、何か聖書の主題について30分ほどの話がなされる。数週間前の集会では、兵士たちは讃美歌礼拝後に短い聖書研究会を持ちたいかどうか尋ねられた。12名ほどの人がそうしたいと言った。しかし、朗読の時になったら、50名以上が出席していた。働き人たちは読み物をもって行き、そして兵士たちにそれを欲しいかどうかを尋ねると、彼らの顔はぼっと明るくなり、そして彼らの手は本やパンフレットを受け取るために熱心に伸ばされる。

先週の安息日には、その廃兵院にいた一人の知的な様相をした男の人が、一人の兄弟に言った。「皆さんがわたしたちのためにここに来て讃美するようになる前は、わたしはほとんどすべての時間を酒を飲んだり仲間と大騒ぎをしたりして費やしていました。しかし皆さんがここに来るようになってから、わたしは自分の時間をもっと良いことに使う方法を見出しました。わたしは飲酒をやめ、その時間を『各時代の希望』を読むために使っています。……」

わたしたちは兵士たちのための働きが前進することを望んでいる。7、8名の求道者がおり、廃兵院の責任者は、良い働きがなされつつあることを認めている。わたしはこの老人たちのいく人かが、ことによると多くが救われると十分に信じている。わたしはわたしたちの民がみな、自分たちの前に戸が開かれていることを悟ることができるようにと願っている。（手紙 112, 1903年6月21日、J・A・バーデン長老夫妻へ、オーストラリアで働いているときに）

6月22日

愛するとは仕えること

「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神は、その豊かなあわれみにより、イエス・キリストを死人の中からよみがえらせ、それにより、わたしたちを新たに生れさせて生ける望みをいだかせ、あなたがたのために天にたくわえてある、朽ちず汚れず、しぼむことのない資産を受け継ぐ者として下さったのである。」(ペテロ第一 1:3, 4)

イエス・キリストの宗教は物語以上のものを意味している。キリストの義は、純潔で無私の動機からなされる正しい行動と良いわざから成り立っている。内なる飾りが欠乏しているならば、外側の義は何の役にも立たない。「わたしたちがイエスから聞いて、あなたがたに伝えるおとずれは、こうである。神は光であって、神には少しの暗いところもない。神と交わりをしていると言いながら、もし、やみの中を歩いているなら、わたしたちは偽っているのであって、真理を行っているのではない。しかし、神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである」(ヨハネ第一 1:5-7)。もしわたしたちが神の光と愛をもっていないならば、わたしたちはこのお方の子ではない。もしわたしたちがキリストと共に集めないならば、わたしたちは広く散らしているのである。わたしたちはみな感化力をもっている。そしてこの感化力は他の人の運命に、すなわち現世と将来の益のためか、もしくは彼らの永遠の損失のために影響を及ぼしているのである。

すべての人にはクリスチャン品性を完成し、キリストと一つになるために、キリストの学校で学ぶべき教訓がある。キリストはご自分の弟子たちに「よく聞きなさい。心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう」と言われた(マタイ 18:3)。このお方は彼らにその意味を説明なさった。このお方は彼らが理解において子供であることは望まれなかったが、悪意においては子供となることを望まれた。小さな子供たちは、優越感や上流階級意識を表さない。彼らはその外見が単純で自然である。キリストはご自分に従う者たちが気取らない作法を養い、彼らの身のこなし全体が謙遜でキリストに似ているようにと望んでおられる。このお方は他人の益のために生きることをわたしたちの義務となさった。このお方は、ご自分がどれほど人類に大きな関心を持っておられるかを示すために天の宮廷からこの世に来られた。そして人の贖いのために支払われた無限の代価は、人には大きな価値があるので、キリストは人を罪の墮落から引き上げるためにご自分の富と誉れとを王の宮廷で犠牲にできたことを示している。

もし天の大君が人類に対するご自分の愛を証明するためにこれほどのことがおできになったとしたら、人がお互いのために喜んでできないこと、すなわち闇と苦悩の穴から出てくるのを互いに助け合うために喜んで何かできないことがあっていいであろうか。(ビュー・アンド・ワールド 一八八六 1886年 6月 22日)

6月23日

神が人類を取り扱われる方法

「愛する兄弟たちよ。よく聞きなさい。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富ませ、神を愛する者たちに約束された御国の相続者とされたではないか。」(ヤコブ 2:5)

金持ちとラザロの譬の中で、偉大な教師は幕を巻き去り、神が、あらゆる信仰、あらゆるいつくしみ、あらゆる憐れみの泉であられることを示された。(1898年6月23日、「金持ちとラザロ」)

ユダヤ人たちはアブラハムの子孫であると主張したが、アブラハムのわざを行わないことによって、自分たちが真に彼の子孫ではないことをあらわした。霊的に彼と調和する人々だけが、真の子孫だと認められるのである。キリストは、こじき〔ラザロ〕が人から下位に見られる階級に属していたにもかかわらず、アブラハムが自分の友情の奥深い懐に入れる人としてお認めになった。

人間の同情はすべての心のうちで大事にされるべきである。それは神の特質であり、決して追い出されてはならない。「あなたがたはみな兄弟なのだ」(マタイ 23:8)。神は人に、困窮している者、傷ついている者、打たれた者を助けて、自分の同胞仲間に同情する責任をお与えになった。多くの人々が自分自身の一連の行動によって困惑させられている。しかし、人類家族のうち、だれが神のように、人類の悲惨さの原因を理解することができるであろうか。

わたしたちの世には、今日、休息を必要としている多くの傷ついた、喜びのない心がある。主はこれらの絶望的な人々の生涯を明るくするための代理人たちを持っておられる。わたしたちは各自、雲を吹き払い、希望とこのお方を信じる信仰という日光を入れることによって、自分のタラントを高利貸しに預けることができる。このお方は「そのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ 3:16)。

キリストはわたしたちに、神により頼むことをしなかった金持ちたちと、神により頼んだ貧しい者たちの立場が逆になる時が近づいていることを示してこられた。この世の財産には貧しいが、苦しみに忍耐し、神に信頼している人々は、この世で与え得る最高の地位を持つ多くの人々にまさって高められる日が来る。

主はわたしたちが人を扱うようには、わたしたちを扱われたい。このお方は莫大な犠牲を払ってご自分のひとり子をお与えになったが、それはこのお方がわたしたちをご自分の奉仕に勝ち取るためであり、このお方と共に、主は全天をお与えになったのであった。ご自分が創造されたものたちにおかれている価値をお示しになるために、このお方はそうなされたのであった。(同上)

6月24日

困惑の中での案内者

「また、あなたが右に行き、あるいは左に行く時、そのうしろで『これは道だ、これに歩め』と言う言葉を耳に聞く。」(イザヤ 30:21)

あなた〔エドソン〕は、誤ることのない相談者を必要としている。うわさによって偏見を抱くことのないお方、狭い考えによって判断力にバランスの欠けることのないお方である。道がある方向に開ける。しかしあなたはその道を歩んでいくべきか、あるいは避けるべきかを判断ができないし、また死すべき人間はだれも教えることができない。また別の道はあなたの前に閉ざされるが、他の方向へ転換すべきなのか、あるいはあなたの確固とした目的のために努力すべきか、だれ一人として決定するほど十分に賢い者はいない。あなたには案内者、死すべき人間の目には見えない力あるお方、あなたの動機も目的も、あなたの心の意図も判断して、あなたの道を案内できるお方が必要である。東方の星は、あなたが従いさえするなら、あなたの道を導いてくださる。

あなたは決して一人でいることはない。あなたがだれも自分に関心をもってくれない場所にいることは決してない。わたしたちの天父はあなたのためにご自分のひとり子を与えて死に渡されたのである。カルバリーの十字架は、このお方があなたの幸福に深い関心を持っておられることを証した。なぜなら、あなたが神のひとり子に買われたものであり、あなたが多くの祈りの主題であるからである。

もしあなたがただ正しいと感じて、正しいことを行いさえすれば、万事はうまくいく。もしあなたが神に助けを求めらば、決して虚しく求めることにはならない。主はあなたの心の信頼を勝ち取るために多くの方法をもって働いておられる。あなたが荷を降ろして、光と力を求めてご自分の許へ来ることほど、このお方が喜ばれることは他にない。そしてこのお方はあなたが魂に休息を見出すと約束して下さった。もしあなたが祈る心と時間を見出すならば、このお方は確かに聞いて下さり、あなたを救うために腕が下に伸ばされるのである。祈りを聞いてくださる神がおられる。そして、すべて他の頼みとするものが期待を裏切るときにも、このお方はあなたの避け所であり、困ったときのいと近き助けであられる。……

もしあなたが困惑しているときに導きを求めて謙遜な信じる心をもって神のみ許へ行くならば、そのときあなたの特権はこのお方に自分の問題を委ねることである。天地が過ぎ去っても約束は期待を裏切らない。そうであれば、神をみ言葉どおりに信じなさい。あなたはほんの三歳のときに、このお方の約束を信じた。いま幼子の単純さを持ちなさい。そして、すがりつく信仰のうちにキリストの許へ行きなさい。あなたの全心をもって主に信頼しなさい。そうすればあなたの信頼は決して裏切られることがなく、決してあなたの不利になることはない。ペニエルの平原で神に嘆願したヤコブを見なさい。彼の祈りは聞かれ、答えられた。そして彼は力強い勝利を得た。(手紙 2, 1886 年 6 月 24 日、エドソンおよびエマ・ホワイトへ)

6月25日

健やかな生涯

「あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい。」(コリント第一 6:19, 20)

福音のはじめの使命者たちは、次の言葉をもって遣わされた。「天国が近づいた」(マタイ 10:7)。これは今日わたしたちのメッセージである。わたしたちは魂に手を伸べる働きが、ある一つの方法にしばられてはならないことを覚えているべきである。福音の医療伝道は、ある人の専門分野の精密さにおいてではなく、キリストの専門分野において進められなければならない。なされるべきことはすべて、聖霊の印章を帯びているべきである。わたしたちはキリストが働かれたように、同様に実際的な分野で働くべきである。そのとき、わたしたちは安全である。

神の委任に改革は必要ない。キリストが真理を提示された方法には改善の余地がない。世俗の思いを持つ人々をひきつけるような方法を取り入れれば、彼らが十字架を負っているようだと感じている障害物を取り除くことになるだろうと考えて、そう試みる働き人は、自分の感化力を弱めているのである。信心の単純さを守りなさい。主の祝福は世俗の証印を帯びた話をする牧師にはない。そうではなく、このお方は真の義の単純さを大事にする人の言葉を祝福されるのである。

わたしたちの働きは実践的でなければならない。わたしたちは人には救うべき魂と同様に体もあることを覚えているべきである。わたしたちの働きには人々の前に立って説教をするよりはるかに多くが含まれている。わたしたちは働きにおいて、自分たちと接触する人々の肉体的な弱さのために奉仕しなければならない。わたしたちは健康改革の原則を提示し、わたしたちの聴衆に自ら健康であるためには、自分にもなすべき役割があるのだという考えを印象づけなければならない。

魂が健康であるために、体は健康的な状態に保たなければならない。体の状態は、魂の状態に影響する。身体的および霊的な強さを持ちたいと思う人は、自分の食欲を正しい方向に教育しなければならない。その人は自分の身体的および霊的な力を酷使うことによって、魂に重荷を負わせることがないように気をつけなければならない。飲食や着衣における正しい原則を忠実に固守することは、神が人類に課された義務である。

主はわたしたちが健康と命の法則に従うようにと望んでおられる。このお方は健康な状態に保つようと自分の体にしかるべき配慮をする責任を各自に課しておられる。(手紙 123, 1903年6月25日、エドソンおよびエマ・ホワイトへ)

6月26日

御霊の働き

「神の国は、見られるかたちで来るものではない。また『見よ、ここにある』『あそこにある』などとも言えない。神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ」。(ルカ 17:20, 21)

天の王国を感じることはできるが、見ることはできない。神の御霊の内なる働きはパン種に譬えられている。……この譬によってキリストは人の心を説明なさった。真理のパン種は内に働く和生活に表れてくる。心はすべての不純から清められ、人はどんな分野における神の奉仕もできるようにさせる品性の特質をもったふさわしいものとされなければならない。パン種が入れられた粉のかたまりを変えていく過程は目に見えないが、それは粉がパンに変えられるまで働く。神の御霊が根本的な変化をもたらすのも同様でなければならない。新しい機能が供給されるのではなく、これらの機能の使い方に完全な変化が起こるのである。生来の傾向はやわらげられ、征服される。新しい思想、新しい感情、新しい動機が植えつけられる。しかしすべての機能が再生される一方で、人は固有性を失うことはない。……

聖書はこの変化において偉大な媒体である。キリストは「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります」と祈られた(ヨハネ 17:17)。この偉大な働きにおいて、わたしたちは神と共に働く共労者である。人間の器が、神の代理人と協力しなければならない。……

パン種が隠されている粉は、イエスを信じ、受け入れる心を表している。キリストはこのお方だけが内に働きかけることのできる原則を外に実践なさった。世はこの階級の人々を解くことのできない神秘として眺めている。利己的で、金銭を愛する人々は、食い、飲み、自分たちの世俗の財産を楽しむために生きている。しかし、彼らは永遠を視野に入れていない。彼は自分たちの計算において永遠を見失っている。しかし真理を受け入れ信じる人々には、愛によって働き、すべて世俗的なことから魂を清める信仰がある。世は彼らを知ることができない。なぜなら、彼らは永遠の現実を視野に入れていないからである。動機力は品性を変えるために内側で働いている。天から受ける抑制的な感化力は、粉の中に隠されたパン種のように働いている。イエスの愛は、存在、魂、体そして精神全体を征服するその贖いの力と共に心に入ったのである。(原稿 82, 1898年6月26日、「真理のパン種」)

6月27日

祈りの力

「ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。」(ペテロ第二 3:9)

神が人の子らのよこしまにこれほど長く忍耐なさり、彼らの不服従を忍びつつ、なおも彼らのご自分の憐れみを悪用し、最も邪悪な言葉をもってご自分に対して偽りの証言を担いながら生きることを許しておられるとは、わたしにとって驚きである。しかし神の方法は、わたしたちの方法ではない。そしてわたしたちはこのお方の愛に満ちた寛容、優しい哀れみ、そして無限の同情に驚かないのである。なぜなら、このお方はちょうどこのお方のご品性どおりであること、すなわち、怒ること遅く、ご自分を愛し、ご自分の戒めを守る者には千代までもあわれみを示されるという間違いのような証拠をお与えになったからである。

わたしは今朝わたしが楽しんだ喜ばしい平安を心から感謝する。わたしは昨夜よく休み、そして今朝、神に自分の魂が安んじていることを感じている。このお方はわたしを置き去りにすることも、捨てることもなさらない。このお方はわたしにとって、必要な時のいと近き助けであられる。……

魂がいたるところでその罪のうちに滅びつつある。わたしの魂は彼らを思って同情する。わたしは彼らを死の昏睡状態から目覚めさせたいと切望している。ああ、どれほど多くの人々が一度も警告を受けたこともなく、真理を聞いたこともないことであろう。その一方では、忠告と警告と祈りが他の人々の耳に聞こえるが、彼らは注意を払わない。かえってもしそれらによって恩恵を受けるならば自分たちの救いとなったはずの特権と機会を拒むのである。彼らは凍りついているように見える。しかし、わたしたち自身の心は神の火によって暖められなければならない。わたしたち自身のクリスチャンの努力とわたしたちのクリスチャンの模範は、熱心で力強いものでなければならない。

わたしたちに負わされている義務は小さいものではない。わたしたちが依存しているという自覚は、わたしたちを神にますます近づける。そして、果たされるべき義務に対するわたしたちの自覚は、努力するようにわたしたちを奮い起こし、これに熱心な祈り、すなわち働きと信仰と絶えざる祈りがあわせられる。力!力!力を求めるわたしたちの大いなる叫びは計りしれない。それはわたしたちを待ち受けている。わたしたちはただ引き出せばよいのである。神をそのみ言葉どおりに信じるのである。信仰を行い、約束に固く立ち、神の恵みが与えられるよう格闘するのである。学問が不可欠なのではない。天才は必要ない。雄弁さは足りないかもしれない。しかし心低く悔いた心の祈りを神は聞かれる。そしてこのお方が聞かれるとき、地上にこれを妨げられる障害は何一つない。神の力がわたしたちを力あるものとしてくださる。(手紙 35, 1878年6月27日、世界総会の総理である彼女の夫へ)

6月28日

わたしたちの道の明かり

「み言葉が開けると光を放って、無学な者に知恵を与えます。…… あなたの約束にしたがって、わが歩みを確かにし、すべての不義に支配されないようにしてください。」(詩篇 119:130-133)

わたしは神の御使があなたのかたわらに立ち、あなたに上を指し示しているのを見た。この御使はあなたの父親と母親に奉仕し、あなたに彼の保護を申し出ていた。しかしあなたはしばしば彼に背を向け、自分自身の道に従おうとしてきた。こうして、あなたは神から離れていった。……

自分自身で、神のみ言葉が自分の足のともし火であり、自分の道の光、すなわち暗いところに輝く光であることを発見した人は幸いである。それは人のための天の指導書である。しかし、有限な人間の意見、偏見、感情、あるいは自分自身の移ろいやすい感情以外に案内者をもっていない人が多く、ああ、実に多くいる。彼らの思いはいらだち、不安定な状態にある。彼らは絶えず精神的な熱に苦しんでいる。

あなたがキリストに従うのであれば、神のみ言葉はあなたにとって、昼は雲の柱、夜は火の柱となる。しかしあなたは神の誉れを自分の人生の第一の目的としてこなかった。あなたには聖書がある。それを自分で研究しなさい。神の指示書の教えは無視されたり、曲解されたりしてはならない。神の思いが導かれることを望む人々を導くのである。真理は真理であり、それはへりくだった心でそれを求めるすべての人を啓発する。誤謬は誤謬であり、どんなにたくさん世の哲学的な思索がなされても、それを真理とすることはできない。

「あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい」(コリント第一 6:20)。主はご自分が血で買われた嗣業に何を要求なさるであろうか。全存在の聖化、すなわちキリストの純潔のような純潔、主のみ旨への完全な一致である。魂の美を構成しているものは何であろうか。それは永遠の死から男女を贖うためにご自分の命を与えてくださったお方の恵みのご臨在である。……

人間の魂の罪を洗い去るために開かれた泉を罪人に指し示す嘆願ほど優しく、その教訓ほど率直で、その命令ほど力強く保護し、彼らの約束ほど十分なものは他にない。(手紙 207, 1904年6月28日、パトル・クークの時代の知り合いへ)

6月29日

わたしたちは、だれのところに行きましょう

「このイエスこそは『あなたがた家造りに捨てられたが、隅のかしら石となった石』なのである。この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。」(使徒行伝 4:11, 12)

キリストに従う者たちがあれほど多くこのお方を去り、そして救い主が十二弟子に「あなたがたも去ろうとするのか」とお尋ねになったときに、シモン・ペテロは答えて言った。「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです」(ヨハネ 6:68)。だれ一人であってもご自分を去っていくのをご覧になることはキリストの心を悲しみで満たす。なぜなら、このお方はご自分の御名を信じ、ご自分の使命を信じる信仰が、人間の唯一の希望であることをご存知だからである。ご自分に従う者たちがこのように離れ去ったことは、このお方にとって侮辱であった。ああ、こうしたことが起こったときに、無限の愛の心を満たした悲しみを知っている人間は何と少ないことであろう。

この世の中では、キリストほど理解と交わりを熱心に切望した人はだれもいない。このお方は同情に飢えておられた。このお方の心は、人が世に対する神の賜物を感謝し、このお方のみ言葉を信じ、このお方の讚美を語ることができるようにと切なる願いで満たされた。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ 3:16)。

「あなたがたも去ろうとするのか」という言葉は、どれほどの悲しみの言葉であったことであろう。その言葉は一人を除いて、すべての弟子たちの心の琴線に触れた。その一人とはユダであった。彼には金銭を求める心しかなかった。彼の最高の願いは、最大な人物になることであった。

弟子たちは実によく言ったものである。「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです」。キリストがどのようなお方であるかを考えてみなさい。いと高き者のひとり子でありながら、悲しみの人で、病を知っていた。わたしたちは全心をもってこのお方に信頼し、絶えずわたしたちの愛と献身をこのお方に示してこのお方に誉れを帰すことによってもたらされる祝福を経験してきたであろうか。キリストは実、すなわちわたしたちの魂を求めて感じておられるこのお方の飢えを満たす実に飢えておられる。わたしたちが「実を豊かに」結ぶことが、このお方の願いである。

わたしたちの心をこのお方の愛に向かって開いていよう。「人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか」(マルコ 8:36)。ああ、わたしたちがペテロによって語られた「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです」という言葉を理解して話すことができるならば、すばらしい祝福がわたしたちにもたらされるようになる。(手紙 171, 1905年6月29日、エドソンおよびエマ・ホワイトへ)

6月30日

クリスチャンの態度と大志

「子供たちよ。あなたがたに書きおくれたのは、あなたがたが父を知ったからである。父たちよ。あなたがたに書きおくれたのは、あなたがたが、初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくれたのは、あなたがたが強い者であり、神の言があなたがたに宿り、そして、あなたがたが悪しき者にうち勝ったからである。世と世にあるものとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。」(ヨハネ第一 2:14, 15)

わたしたちが働かなければならない時間が短いことを悟り、自覚するとき、わたしの霊はわたしのうちにかき乱れる。これほど大きな結果が民としてわたしたちにかかっていたときはなかったように思える。今ほどなされるべき働きを熱心になすために、あらゆる年齢と国の青年たちが必要とされていたときはかつてなかった。

社会は今日の青年たちを求めている。戦いの前線に立ち、重荷と日中の暑さに耐えてきた人々は、人生の表舞台を去るようになる。これらの賢明な指導者や勧告者がこれ以上、自分たちの重荷を負うことができなくなるときに、彼らの地位を埋める青年たちはどこにいるであろうか。青年たちにこれらの義務が降りかかることになる。青年たちが自らを教育することはいかに重要なことであろう。なぜなら、彼らにこれらの義務が委譲されることになるからである。

わが子よ〔ウィリアム・C〕、墮落していない忠誠をもって自分の義務を果たす準備をなさい。わたしは若い人たちに、もし彼らが神によって自分たちに課された要求を自覚するならば、彼らが何になることができるか、彼らに何ができるかを印象づけられるならと願う。このお方は彼らに能力を与えてこられた。それは怠惰のうちに沈滞するためではなく、高尚な行動によって強め、高めるためである。

ウィリーよ、わたしの最大の懸念は、あなたが世の標準に従って偉大な人物になれるかということではなく、毎日神の正しいことの標準に応じる進歩をとげる良い人物になるかということである。……

品性が作られなくてはならない。これは一生涯の働きである。それは瞑想と思考力を要求する働きである。判断力が良く働かされ、勤勉と辛抱が確立されなければならない。……あなたは自分の働きにおいて他人から励まされるかもしれない。しかし彼らは誘惑に打ち勝つあなたの働きをすることは決してできない。あなたが彼らのために正直で信頼でき、勤勉で徳のある者となることができないように、彼らもあなたのためにそうなることはできないのである。ある意味では、あなたは自分で闘いを戦い、独りで立たなければならない。しかしなお、あなたは一人ではない。あなたにはあなたを助けるイエスと神の御使たちがいる。しかし自分たちに可能な品性の卓越さに到達する者はほとんどいない。なぜなら、彼らは目標を高く持たないからである。繁栄と幸福はそれら自体が独自に成長することはない。それらは労して得るものであり、長い涵養(かんよう)の実なのである。(手紙 22, 1875年6月30日、20歳の彼女の息子、W・C・柯什へ)

研究 6

清めの特別な働き



2. 大贖罪の日における大祭司 の立場と働き

調査審判

前回は、清めの働きのために至聖所に入られた大祭司に従っていった人々をみました。彼らは、自分たちの大祭司イエスが聖所から至聖所に移られたときに、このお方の動きを注視して、このお方と共に至聖所に入ったのです。

では、このお方の仲保の働きを表す香炉の位置を見てみましょう。

香炉の位置

香炉は至聖所の中にありました（ヘブル 9:4）。大祭司が最後に至聖所に入る時、香炉は至聖所の中に移されました。香が聖所全体に満ちたのでした（黙示録 15:8）。

至聖所の中の契約の箱が見え（黙示録 11:19）、大祭司なるキリストもまた現れ（レビ記 16:12, 13; 黙示録 8:3, 4）、香が聖所に満ちました（黙示録 15:8）。そのとりなしがやむと、大祭司は外に出られ、香炉もまた外に移されました（黙示録 8:5）。

とりなしが止むと恩恵期間が閉じます。だれも聖所に入ることはできません（黙示録 15:8）。

このとき、仲保者はいません。

このお方が聖所を去るとき、闇が地の住民を覆います。その恐るべき時に、義人は聖なる神のみ前で仲保者なしに生きなければならないのです（各時代の

大争闘下巻 386)。

『彼らは大きな患難をとって来た人たちであって』、国が始まって以来かつてなかったほどの悩みの時を通ってきた。彼らは、ヤコブの悩みの時の苦しみに耐えた。彼らは、神の最後の刑罰がくだる中を、仲保者なしで立った。しかし彼らは、『その衣を小羊の血で洗い、それを白くした』ために、救われた」(各時代の争闘下巻 430, 431)。

このとりなしのための香炉が至聖所の中にあって、香が聖所に満ちている間に、聖徒のための審判が行われています。

その審判とはどのようなものでしょうか。

調査審判

「友よ、どうしてあなたは礼服をつけないで、ここにはいつてきたのですか」(マタイ 22:12)。

この調査審判では、礼服をつけているかつけていないかを調べます。この礼服とは、御子の婚宴に出席できるように一人びとりのために用意されたキリストの義の衣です。つまり、その義の衣を与えるところがキリストの奉仕の中心である聖所であり、その衣を身に着けているかを調べるのが調査審判ですから、この学びの基調である次の言葉はいかに大切なことでしょう。

「聖所と調査審判の問題は、神の民によってはっきりと理解されねばならない。すべての者は、自分たちの大いなる大祭司キリストの立場と働きについて、自分で知っている必要がある。そうしなければ、この時代にあって必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる。ひとりびとりの魂は、救われるか、滅びるか、そのどちらかなのである。各自は、今、神に裁かれようとしている。各自は大いなる審判者と顔を合わせなければならない。とするならば、審判が始まり、かずかずの書物が開かれる厳粛な時のことを、ダニエルとともに、定められた日の終わりに立って、自分たちの分を受けねばならない厳粛な時のことを、たびたび瞑想することは、すべての者にとってどんなにか重要なことであろう」(各時代の争闘下巻 222)。

礼服を着て、その礼服がその人のものとなっていることが見いだされた人々の罪が、聖所から取り除かれます。

「真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許しが書き込まれる。彼らは、キリストの義にあずかる者となり、**彼らの品性は、神の律法にかなったものとなったので**、彼らの罪は、ぬぐい去られ、彼ら自身は、永遠の生命にあずかるにふさわしいものとされるのである。主は、預言者イザヤによって、こう宣言しておられる。「わたしこそ、わたし自身のためにあなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない」（イザヤ書 43:25）。イエスは、次のように言われた。「勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう」（黙示録 3:5、マタイ 10:32）。

「聖所の清めは、そのため調査審判の働きを含むのである。この働きはキリストがご自分の民をあがなうために来られる直前になされなければならない。……」（預言の霊 4 巻 266）（生き残る人々 425、各時代の争闘下巻 136、137 参照）。

裁きの時と働き

それでは、この調査審判は、いつ、何が、行われるのでしょうか。

「彼は言った、『二千三百の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する』」（ダニエル 8:14）。

2300 年が終わる 1844 年から、罪人から聖所に移されてきた罪が永久に取り除かれて、聖所は正しい状態に戻ります。しかし、永遠のための決定が下る前に調査が必要です。

「だれが罪の悔い改めとキリストを信じる信仰によって、贖いの恵みを受ける資格があるかを決定するために、記録の書の調査がなされねばならない。した

がって、聖所の清めには、調査の働き、すなわち審判の働きが含まれるのである。この働きは、キリストがご自分の民を贖うために来られる前に行なわれねばならない。なぜなら、彼が来られる時には、彼はすべての者に、それぞれの行為に応じて報いを与えられるからである（黙示録 22:12 参照）」（各時代の大争闘 422）。

「『わたし はまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、日の老いたる者のもとに来ると、その前に導かれた。彼に主権と光栄と国とを賜い、諸民、諸族、諸国語の者を彼に仕えさせた。その主権は永遠の主権であって、なくなることがなく、その国は滅びることがない』（ダニエル書 7:13, 14)。ここに描かれているキリストの来臨は、キリストが地上に再臨されることではない。キリストは、天において日の老いたる者のもとに来られるのであって、それは、彼の仲保者としての働きが終わるときに与えられる『主権と光栄と国』とをお受けになるためである。2300 日の終わりである 1844 年に起こると預言されたのは、この来臨のことであって、キリストが地上に再臨されることではなかった。われわれの大祭司は、天使たちを従えて、至聖所に入り、神のみ前で、人類のための彼の最後の務めをなさる。それは、調査審判の働きであり、贖罪の恵みにあずかる資格があることを示したすべての人のために贖いをなさることである」（各時代の大争闘下巻 211）。

この調査が終わると、イエスは大祭司としての働きを終え、王としてご自分の民を迎えるために来臨されます。すなわち、この働きは大祭司として人類のための贖いの働きの最後の務めであり、預言はこの働きがすでに 1844 年から始まっていることを告げています。

「この運動がいつ起こるものであるかについては、メッセージ自体が明らかにしている。それは、『永遠の福音』の一部であると宣言されている。そして、審判の開始を告知している。救いのメッセージは、各時代において宣べ伝えられてきた。しかし、このメッセージは、終末時代においてのみ宣布される福音の一部分である。というのは、その時において初めて、さばきの時が来たということがのできるからである」（各時代の大争闘下巻 50）。

「ダニエル書 8:14 の預言と、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばき

の 때가きたからである』という**第一天使のメッセージ**とは、ともに、至聖所におけるキリストの務め、すなわち調査審判をさす」(各時代の**大争闘下巻 139**)。

では、この調査審判の基準は何でしょうか。

裁きの基準

「わたしを捨てて、わたしの言葉を受けいれない人には、その人をさばくものがある。わたしの語ったその言葉が、終りの日にその人をさばくであろう」(ヨハネ 12:48)。

「書物が開かれる。それはいのちの書と死の書である。いのちの書には、聖徒たちの善行が記されている。死の書には悪人たちの悪い行いが記されている。これらの書が、律法の書、聖書と比べられ、それに従って人々は審かれる」(初代文集 121)。

「**神の律法**が、審判の時に人々の品性と生活を吟味する基準である。賢者ば神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である。神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである』と言っている(伝道の書 12:13, 14)。使徒ヤコブは、兄弟たちに、『だから、自由の律法によってさばかるべき者らしく語り、かつ行いなさい』と勧告している(ヤコブ 2:12)。」(各時代の**大争闘下巻 214**)。

今、至聖所で、わたしたちの大祭司は神の国に住むべき聖徒たちのためにとりなしを行っておられるのであり、神の国の律法に従って調査審判が行われています。つまり、神の律法に満たないことを許してほしいという嘆願に答えるためではありません。「キリストは罪に仕える者なのであろうか。断じてそうではない」(ガラテヤ 2:17)。そして、このお方は「わたしの言葉を受けいれない人に」、「わたしの語ったその言葉が、終りの日にその人をさばくであろう」と言われました(ヨハネ 12:48)。

裁きのための記録

「かずかずの書き物が開かれた」(ダニエル 7:10)。

このさばきは、完全な記録にしたがってなされます。

「いのちの書には、神の働きをしたすべての人の名が記されている。イエスは、弟子たちに『あなたがたの名が天にしろされていることを喜びなさい』と言われた(ルカ 10:20)。パウロは、忠実な同労者の名が『いのちの書』に……書きとめられている』と言っている(ピリピ 4:3)。ダニエルは、『かつてなかったほどの悩みの時』を予見して、『あの書に名をしるされた』すべての神の民は救われると言っている。また、ヨハネは、神の都に『はいれる者は、小羊のいのちの書に名をしるされている者だけである』と言っている(ダニエル書 12:1、黙示録 21:27)。

「神の前に、『覚えの書』が記されているが、それには、『主を恐れる者、およびその名を心に留めている者』の善行が記録されている(マラキ書 3:16)。彼らの信仰の言葉、彼らの愛の行為は、天に記録されている。ネヘミヤは、このことについて、次のように言っている。『わが神よ、……わたしを覚えてください。……神の宮……のためにわたしが行った良きわざをぬぐい去らないでください』(ネヘミヤ記 13:14)。神の覚えの書には、すべての正しい行為が永久に記されている。誘惑を退けたこと、悪に打ち勝ったこと、あわれみの言葉をかけたことなどが、忠実に記録されている。また、すべての犠牲の行為、キリストのために耐えたすべての苦しみや悲しみが記録されている。『あなたはわたしのさすらいを数えられました。わたしの涙をあなたの皮袋にたくわえてください。これは皆あなたの書にしろされているではありませんか』と詩篇記者は言っている(詩篇 56:8)。

また、人々の罪の記録もある。『神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである』(伝道の書 12:14)。救い主は次のように言われた。『審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならぬであろう。あなたは、自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ありとされるからである』(マタイ 12:36, 37)。隠れた目的や動機もまちがいに記録される。

『主は暗い中に隠れていることを明るみに出し、心の中で企てられていることを、あらわにされるであろう』(コリント第一 4:5)。『見よ、この事はわが前にしろされた、……「彼らの不義と、彼らの先祖たちの不義とを共に報い返す」と主は言われる』(イザヤ書 65:6, 7) (各時代の大争闘下巻 212, 213)。

裁きの厳粛さ

「神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれるからである」(伝道の書 12:14)。

「わたしたちはみな、神(キリスト)のさばきの座の前に立つのである」(ローマ 14:10)。

「わたしたちは皆、キリストのさばきの座の前にあらわれ、善であれ悪であれ、自分の行ったことに応じて、それぞれ報いを受けねばならないからである」(コリント第二 5:10)。

「父はだれをもさばかない。さばきのことはすべて、子にゆだねられたからである」(ヨハネ 5:22)。

このお方はすべてを正確にご存知です。

「あなたには五人の夫があったが、今のはあなたの夫ではない。あなたの言葉のとおりである」(ヨハネ 4:18)。

「彼らがそう言ったのは、イエスをためして、訴える口実を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に何か書いておられた。……そしてまた身をかがめて、地面に物を書きつづけられた。これを聞くと、彼らは年寄から始めて、ひとりびとり出て行き、ついに、イエスだけになり、女は中にいたまま残された」(ヨハネ 8:6, 8-9)。

「告発者たちはイエスが自分たちの過去の罪を知っておられるばかりでなく、この裁きをこのお方のみ前に持ち出した彼らの目的をもご存じであることがわかった。……彼らは今、イエスがそこにいるすべての人の前で彼らの罪深さを暴露されるのではないかと恐れ、そのために『(自分自身の良心のとがめを感じて)彼らは年寄から始めて、ひとりびとり出て行』った」(サイン・オブ・タイムズ 1879年10月23日)。

「人々は、地上の法廷の判決に深い関心を示すのであるが、しかしそれも、いのちの書にその名を記された人々が、全地の審判者の前で調査される時の天の法廷における関心とは、とうてい比較にならない」(各時代の争闘下巻 216)。

「すべての国民が神の前で審判を受けるのであるが、しかし神は、あたかもこの地上にその人一人しかいないかのように、厳密に一人一人を審査されるのである。すべての者が調べられねばならない。そして、しみもしわもそのたぐいのものがいっさいあつてはならないのである。

贖罪の働きが終結しようとするときの光景は、実に厳粛である。そこには、実に重大な意義が含まれている。審判は今、天の聖所において進行中である。長年にわたって、この働きは続けられてきた。間もなく—その時がいつかはだれも知らないが—生きている人々の番になる。神のおそるべき御前で、われわれの生涯が調査されねばならない」(各時代の^大争闘下巻 224)。

ふさわしいとされる

「かの世にはい……るにふさわしい(とされた)者たち」(ルカ 20:35)。

「善をおこなった人々は、生命を受けるためによみがえり……出てくる時が来る」(ヨハネ 5:29)。

「死んだ義人は、審判がすみ「生命を受けるためによみがえ」るにふさわしい者とされるまでは、復活することはない。したがって、彼らの記録が調査され、運命が決定されるときに、彼ら自身はその法廷にはいないのである」(各時代の^大争闘下巻 214)。

わたしたちの保証人として、神の御前に出て下さったわたしたちの大祭司の働きは、完全です。ですから、「救い主の 仲保の恵みにあずかりたいと思うものは、神を畏れつつ聖潔を完成していくというその義務を、何ものにも妨げられ」ないようにしようではありませんか!

(50 ページの続き)

じょうとしませんでした。

このような考えによって、彼らはサタンが自分たちの思いを支配するための道を開いたのでした。そこで彼らは救い主に対して憤りに満たされました。彼らはこのお方に対して叫び、そしてこのお方の命を取ろうと決心しました。

彼らは、丘の絶壁の向こうにお方を投げようとして、このお方を追い立てました。しかし聖なる天使たちがこのお方を守るために近くにいました。このお方は群衆の間を安全に通過され、そして発見されませんでした。

次にこのお方がナザレに来られたとき、人々はもはやこのお方を受け入れる用意ができていませんでした。このお方は去って行かれ、二度と戻ることはありませんでした。

キリストはこのお方の助けを望んでいる人々のために働かれました。そして、国中の人々が、このお方のまわりにむらがってきました。このお方が彼らをいやし、教えられたとき、そこには大きな喜びがありました。天国が地上に降りてきたように思われ、彼らはあわれみ深い救い主の恵みを大いに喜びました。

大豆のプラリーヌ

■材料

大豆	1 カップ
砂糖	大さじ 3
水	小さじ 2

■作り方

1. 大豆は一晩ふやかします。
2. 火加減はぱちぱちするまで強火で、そのあとは焦げないように弱火で炒ります。
3. 炒った豆をとりわけておき、なべに砂糖とお水を入れて強火で煮立て、シロップを作ります。(溶けるだけ入れます。)
4. その後、火を止めて、豆を加え、豆どうしがくっつかないように、木べらで混ぜ続けます。すると、砂糖が再結晶化してきます。離れない豆は手でバラバラにしてください。
5. 砂糖がかわいた感じになるまで、混ぜ続けて、できあがりです。

砂糖の再結晶化を利用したお菓子で、カリカリした食感を楽しめます。一度だけでなく、何度も同じ作業をくり返して、衣を上塗りしていくとさらに本格的な仕上がりになります。

アーモンドやピーナツなど、他のナッツでもできますよ。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校：9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教：11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先：〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱13号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

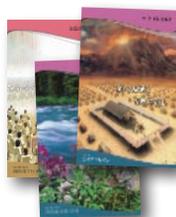


書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第16話 初期の働き(Ⅲ)

このお方の公生涯の間に、イエスさまは2度ご自分の昔のふるさとであるナザレを訪れました。最初の訪問のとき、このお方は安息日に会堂に行かれました。

ここでこのお方はイザヤの預言からメシヤの働きについてどのようにこのお方が貧しい人に福音を説き、悲しんでいる人をなぐさめ、盲人に視力を与え、そして傷ついた人をいやされるかを読まれました。

それから、このお方は人々にこのすべてのことはこの日に成就したとお語りになりました。これこそ、このお方ご自身がなさっている働きでした。

これらの言葉で聞いている者たちは喜びに満たされました。彼らはイエスさまが約束された救い主であると信じました。彼らの心は聖霊によって動かされ、熱烈なアーメンと賛美とをもって主に答えました。

それから、彼らはイエスさまが大工としてどのように自分たちの間で生活なさっていたかを思い出しました。しばしば彼らは店でこのお方がヨセフと共に働かれていたのを見ていました。このお方の生活全体には愛と憐れみの行為しかありませんでしたが、彼らはこのお方がメシヤであると信

